

【参考5：第108回（令和4年11月30日）厚生労働省新型コロナウイルス感染症対策アドバイザーボード、「献血検体を用いた抗体保有率実態調査」】

献血時の検査用検体の残余血液を用いた新型コロナウイルスの抗体保有率実態調査 (結果速報、概要)

第108回（令和4年11月30日） 新型コロナウイルス感染症対策アドバイザーボード	資料3-2-②
鈴木先生提出資料	

- 現在の流行の主流であるオミクロン株の流行下における国民の新型コロナウイルスに対する抗体保有状況については、大規模な流行となった今夏の感染拡大（第7波）等を踏まえると、急速に変化していると考えられる。
- 国民の抗体保有率は、今後の感染動向の予測や対策等を検討する際に極めて重要なデータとなる。
- このため、今夏の感染拡大を経た現状の全国の抗体保有状況について、迅速に把握する観点から、日本赤十字社の協力のもと、全都道府県を対象に、献血時の検査用検体の残余血液を用いた調査を実施した。

献血時の検査用検体の残余血液を用いた新型コロナウイルスの抗体保有率実態調査	
調査の目的	今夏の感染拡大を踏まえた市中での感染状況の把握
実施主体	厚生労働省 ※日本赤十字社による協力のもと実施
調査時期	令和4年11月6日～13日
対象者	令和4年11月6日～13日に、日本赤十字社の献血ルーム等を訪れた献血者（※1）8,260名（必要な検体数は都道府県毎に異なる。）
対象地域	全都道府県
測定項目	抗N抗体
統計分析	日本全体及び都道府県別の抗体保有率と95%信頼区間（CI）（※2）の推定（バイアスの補正なし）
測定結果 (速報値)	全体：26.5% (95%CI: 25.6-27.5%)（※3） (都道府県別については別紙)

（※1）全血献血又は成分献血の基準を満たし、以下のいずれにも該当しない者を対象とする。

- ・新型コロナウイルス感染症と診断された又は新型コロナウイルス検査で陽性になったことがあり、症状消失後（無症状の場合は陽性となった検査の検体採取日から）4週間以内の方
- ・発熱及び咳・呼吸困難などの急性の呼吸器症状を含む新型コロナウイルス感染症が疑われる症状や、味覚・嗅覚の違和感を自覚する方で、症状出現日から2週間以内及び症状消失から3日以内の方
- ・新型コロナウイルス感染者の濃厚接触者に該当し、最終接触日から2週間以内の方

（※2）信頼区間はBinomial exact CIで構成

（※3）結果の解釈に当たっては、以下の点に留意する必要がある。

- ・今回の測定結果は、陽性判定された検体数を全検体数で割った値であり、**単純集計**にて求めたものである点
- ・**献血の対象年齢が16～69歳**であり、70歳以上の高齢者は含まれず、小児、高齢者の陽性率の分布はこのデータからは分からない点
- ・迅速に各都道府県の抗体陽性率を把握を行う目的で実施しており、献血を行った者の中から系統的無作為に抽出を行ったため、速報では、**性別や年齢分布など陽性率に影響を与えうる因子を補正しておらず、本来の人口単位の抗体保有率とは異なる可能性**がある点

1

献血時の検査用検体の残余血液を用いた新型コロナウイルスの抗体保有率実態調査 (結果速報、都道府県別)

都道府県名	抗体保有率 (95%CI (※3))	都道府県名	抗体保有率 (95%CI (※3))	都道府県名	抗体保有率 (95%CI (※3))
北海道	22.4% (16.3-29.4%)	石川県	22.2% (16.1-29.2%)	岡山県	28.6% (21.9-36.0%)
青森県	21.4% (15.2-28.8%)	福井県	24.4% (18.2-31.5%)	広島県	17.1% (11.9-23.6%)
岩手県	16.5% (10.1-24.8%)	山梨県	26.7% (19.7-34.7%)	山口県	23.3% (16.7-31.0%)
宮城県	20.3% (13.9-28.0%)	長野県	9.0% (4.6-15.6%)	徳島県	13.1% (8.2-19.5%)
秋田県	18.7% (12.2-26.7%)	岐阜県	15.5% (10.5-21.8%)	香川県	30.9% (24.1-38.3%)
山形県	19.5% (12.6-28.0%)	静岡県	24.4% (17.9-31.8%)	愛媛県	14.4% (9.1-21.1%)
福島県	20.8% (14.0-29.2%)	愛知県	27.5% (21.6-34.2%)	高知県	30.8% (23.9-38.3%)
茨城県	23.5% (17.1-31.1%)	三重県	21.6% (15.6-28.6%)	福岡県	29.2% (23.5-35.4%)
栃木県	25.5% (18.6-33.6%)	滋賀県	25.8% (19.7-32.6%)	佐賀県	28.3% (22.4-34.6%)
群馬県	20.4% (14.2-27.8%)	京都府	34.9% (28.5-41.7%)	長崎県	31.9% (25.4-39.1%)
埼玉県	28.6% (22.4-35.6%)	大阪府	40.7% (34.7-46.9%)	熊本県	32.9% (26.7-39.5%)
千葉県	26.7% (20.4-33.8%)	兵庫県	30.0% (24.0-36.7%)	大分県	24.9% (18.8-31.7%)
東京都	31.8% (26.1-37.9%)	奈良県	30.0% (23.7-36.9%)	宮崎県	31.3% (25.0-38.0%)
神奈川県	31.6% (25.1-38.7%)	和歌山県	25.0% (18.7-32.2%)	鹿児島県	35.2% (28.8-42.0%)
新潟県	15.0% (9.3-22.4%)	鳥取県	21.2% (14.7-29.0%)	沖縄県	46.6% (41.2-52.1%)
富山県	19.9% (13.7-27.3%)	島根県	18.5% (12.6-25.8%)		

(注)

1) 全血献血又は成分献血の基準を満たし、以下のいずれにも該当しない者を対象とする。

- ・新型コロナウイルス感染症と診断された又は新型コロナウイルス検査で陽性になったことがあり、症状消失後（無症状の場合は陽性となった検査の検体採取日から）4週間以内の方
- ・発熱及び咳・呼吸困難などの急性の呼吸器症状を含む新型コロナウイルス感染症が疑われる症状や、味覚・嗅覚の違和感を自覚する方で、症状出現日から2週間以内及び症状消失から3日以内の方
- ・新型コロナウイルス感染者の濃厚接触者に該当し、最終接触日から2週間以内の方

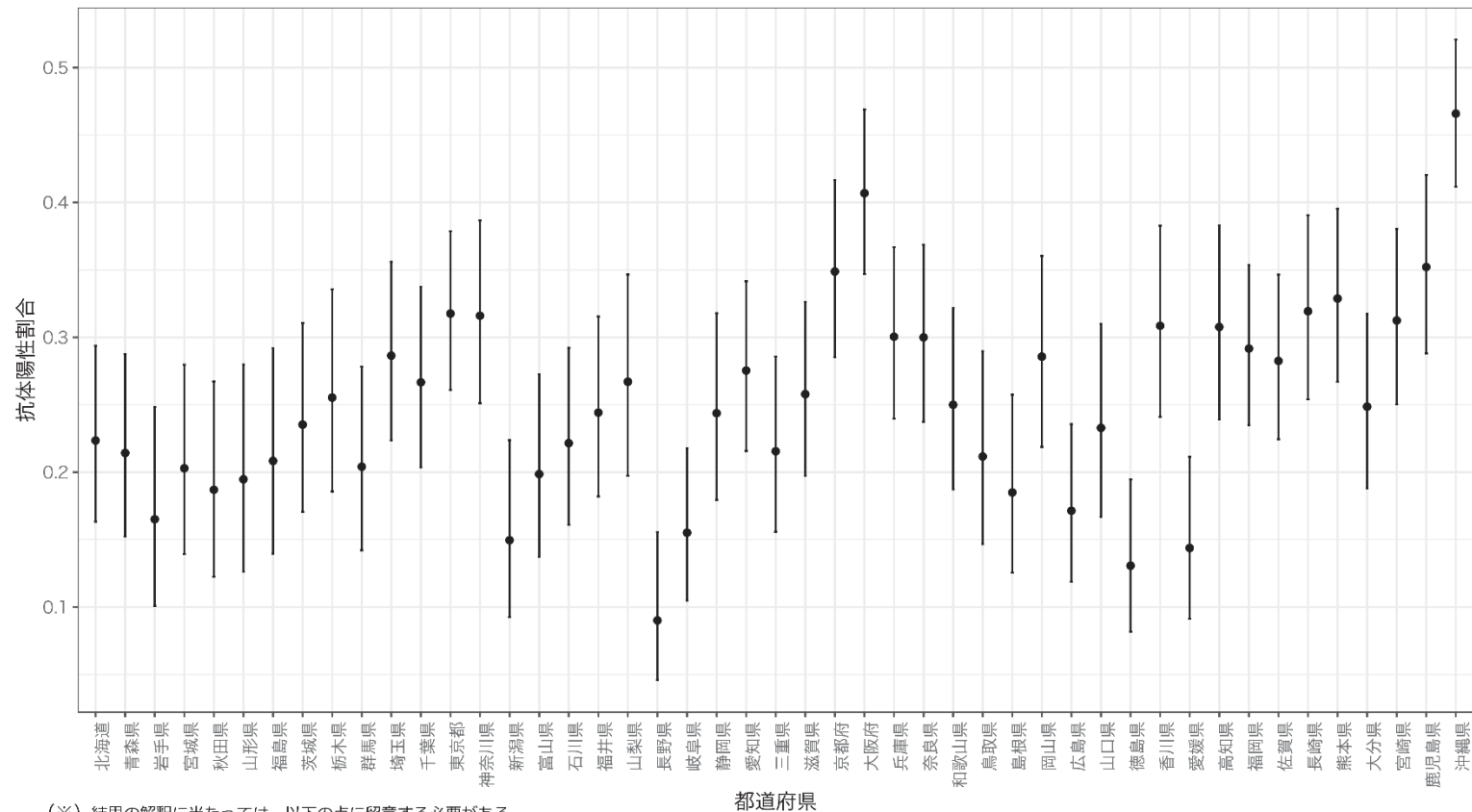
2) 結果の解釈に当たっては、以下の点に留意する必要がある。

- ・今回の測定結果は、陽性判定された検体数を全検体数で割った値であり、**単純集計**にて求めたものである点
- ・**献血の対象年齢が16～69歳**であり、70歳以上の高齢者は含まれず、小児、高齢者の陽性率の分布はこのデータからは分からない点
- ・迅速に各都道府県の抗体陽性率を把握を行う目的で実施しており、献血を行った者の中から系統的無作為に抽出を行ったため、速報では、**性別や年齢分布など陽性率に影響を与える因子を補正しておらず、本来の人口単位の抗体保有率とは異なる可能性**がある点

3) 信頼区間はBinomial exact CIで構成

2

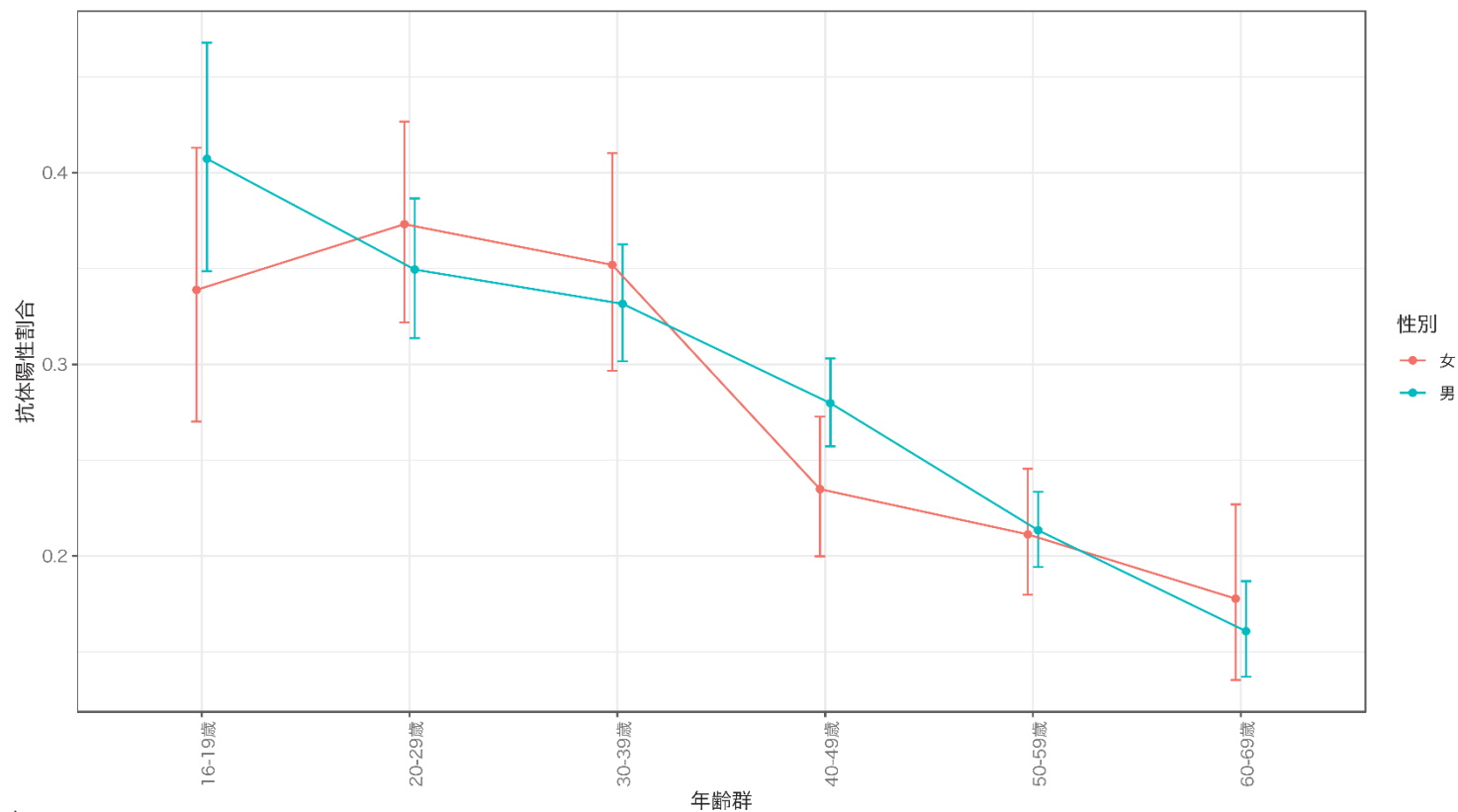
献血時の検査用検体の残余血液を用いた新型コロナウイルスの抗体保有率実態調査 (結果速報、都道府県別※)



(※) 結果の解釈に当たっては、以下の点に留意する必要がある。

- ・ 今回の測定結果は、陽性判定された検体数を全検体数で割った値であり、**単純集計**にて求めたものである点
- ・ **献血の対象年齢が16～69歳**であり、70歳以上の高齢者は含まれず、小児、高齢者の陽性率の分布はこのデータからは分からない点
- ・ 迅速に各都道府県の抗体陽性率を把握を行う目的で実施しており、献血を行った者の中から系統的無作為に抽出を行ったため、速報では、**性別や年齢分布など陽性率に影響を与えうる因子を補正しておらず、本来の人口単位の抗体保有率とは異なる可能性**がある点
- ・ 信頼区間はBinomial exact CIで構成

献血時の検査用検体の残余血液を用いた新型コロナウイルスの抗体保有率実態調査 (結果速報、年齢群別・性別※)



(※) 結果の解釈に当たっては、以下の点に留意する必要がある。

- ・ 今回の判定結果は、陽性判定された検体数を全検体数で割った値であり、**単純集計**にて求めたものである点
- ・ **献血の対象年齢が16～69歳**であり、70歳以上の高齢者は含まれず、小児、高齢者の陽性率の分布はこのデータからは分からない点
- ・ 迅速に各都道府県の抗体陽性率を把握を行う目的で実施しており、献血を行った者の中から系統的無作為に抽出を行ったため、速報では、**性別や年齢分布など陽性率に影響を与える因子を補正しておらず、本来の人口単位の抗体保有率とは異なる可能性**がある点
- ・ 信頼区間はBinomial exact CIで構成

献血時の検査用検体の残余血液を用いた新型コロナウイルスの抗体保有率実態調査 (結果速報、参考表※)

表1.性別

性別	抗体陽性率 (95% CI)
女	26.5% (24.7-28.4%)
男	26.5% (25.4-27.7%)

表2.年齢群別

年齢群	抗体陽性率 (95% CI)
16-19歳	38.0% (33.5-42.7%)
20-29歳	35.7% (23.8-38.8%)
30-39歳	33.6% (31.0-36.3%)
40-49歳	26.8% (24.9-28.8%)
50-59歳	21.3% (19.6-23.0%)
60-69歳	16.5% (14.4-18.8%)

表3.性年齢群別

	抗体陽性率 (95% CI)
女-16-19歳	33.9% (27-41.3%)
女-20-29歳	37.3% (32.2-42.7%)
女-30-39歳	35.2% (29.7-41%)
女-40-49歳	23.5% (20.0-27.3%)
女-50-59歳	21.1% (18.0-24.6%)
女-60-69歳	17.8% (13.5-22.7%)
男-16-19歳	40.7% (34.9-46.8%)
男-20-29歳	34.9% (31.4-38.7%)
男-30-39歳	33.2% (30.2-36.3%)
男-40-49歳	28% (25.7-30.3%)
男-50-59歳	21.3% (19.4-23.4%)
男-60-69歳	16.1% (13.7-18.7%)

(※) 結果の解釈に当たっては、以下の点に留意する必要がある。

- ・今回の測定結果は、陽性判定された検体数を全検体数で割った値であり、**単純集計**にて求めたものである点
- ・**献血の対象年齢が16～69歳**であり、70歳以上の高齢者は含まれず、小児、高齢者の陽性率の分布はこのデータからは分からない点
- ・迅速に各都道府県の抗体陽性率を把握を行う目的で実施しており、献血を行った者の中から系統的無作為に抽出を行ったため、速報では、**性別や年齢分布など陽性率に影響を与えうる因子を補正しておらず、本来の人口単位の抗体保有率とは異なる可能性**がある点
- ・信頼区間はBinomial exact CIで構成

【参考6：アンケート結果】

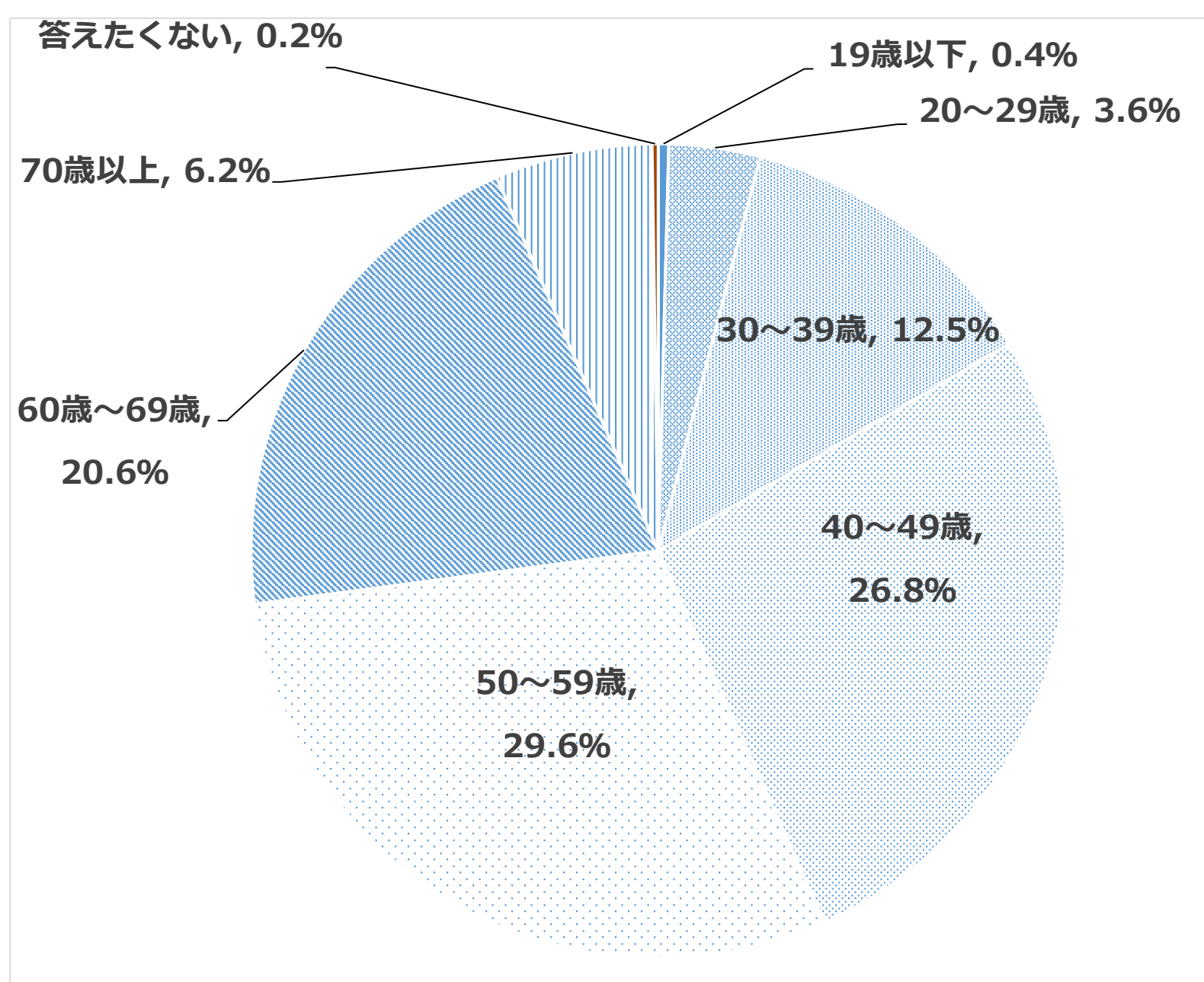
新型コロナウイルス感染症への対応・ワクチンについてのアンケート調査結果

実施期間	：令和5年2月21日～2月28日
アンケート方法	：LINE「長野県新型コロナ対策パーソナルサポート」で配信
配信数	：155,119人（前回：158,800人、前々回：159,250人）
回答者数	：10,577人（前回：11,824人、前々回：11,257人）
回答率	：6.8%（前回：7.4%、前々回：7.1%）

※注意事項：

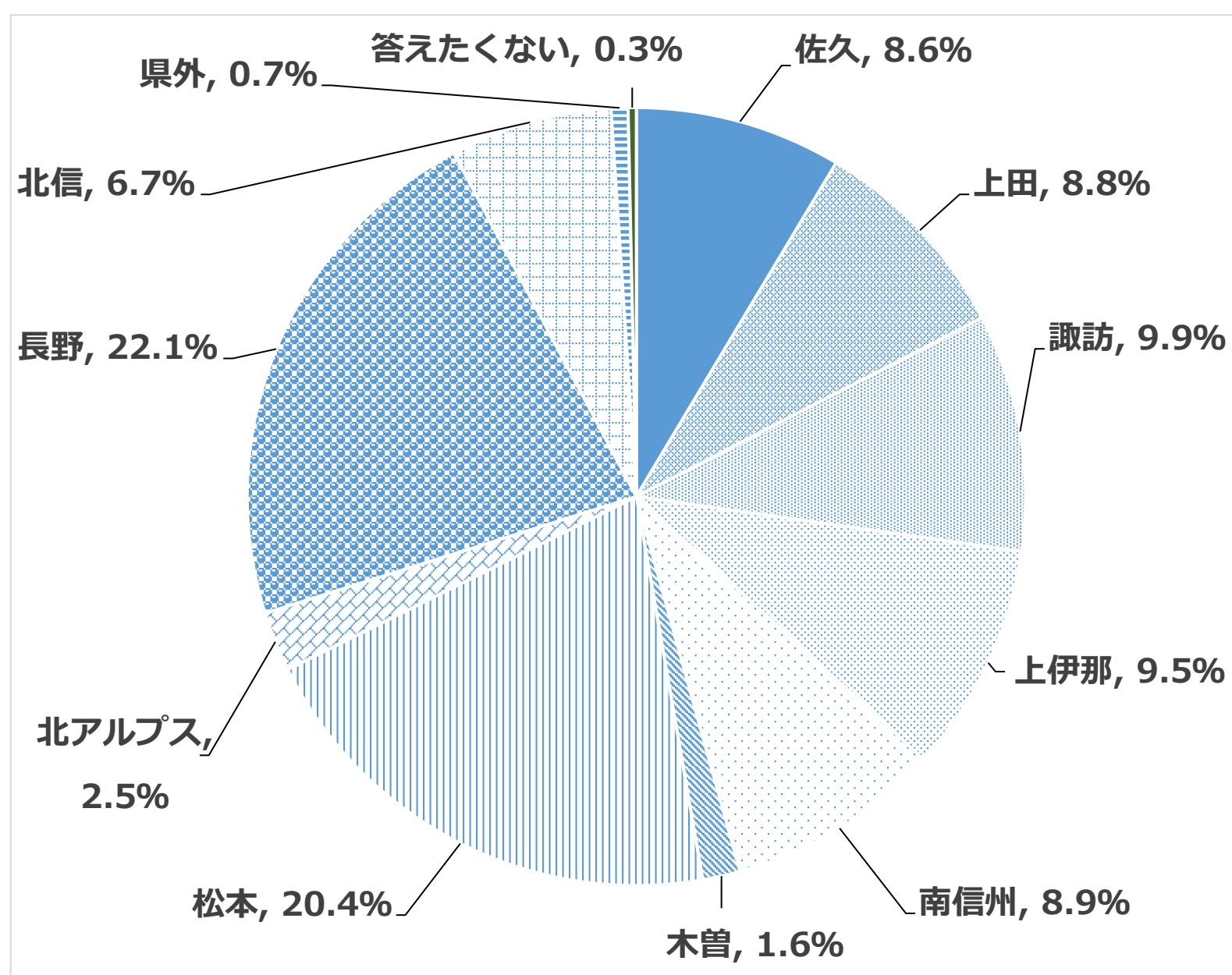
- ・グラフのうち、割合が少ないものについてはパーセント表示を省略している部分があります
- ・未回答者が存在する設問があるため、グラフの合計割合が100%とならないものがあります

○年代



区分	人数	割合
19歳以下	44	0.4%
20～29歳	383	3.6%
30～39歳	1,320	12.5%
40～49歳	2,834	26.8%
50～59歳	3,131	29.6%
60～69歳	2,178	20.6%
70歳以上	661	6.2%
答えたくない	26	0.2%
合計	10,577	100.0%

○お住まいの地域



地域	人数	割合
佐久	908	8.6%
上田	933	8.8%
諏訪	1,042	9.9%
上伊那	1,009	9.5%
南信州	943	8.9%
木曾	165	1.6%
松本	2,157	20.4%
北アルプス	263	2.5%
長野	2,335	22.1%
北信	712	6.7%
県外	74	0.7%
答えたくない	36	0.3%
合計	10,577	100.0%

【県が行っている新型コロナウイルス感染症対策について】

長野県では、県独自の感染警戒レベル、医療アラートの運用などにより感染拡大防止のための対策を行ってきました。これまでの対策の認知度や、県の対策を受けて県民の皆様が心がけたことなど、これまでの対策の振り返りと今後の対策の参考とするため、以下についてお伺いします。

◎ 感染警戒レベルについて

Q1：県では10の広域圏域ごとに感染警戒レベル（5段階）を定め、感染対策をお願いしていることをご存じですか。

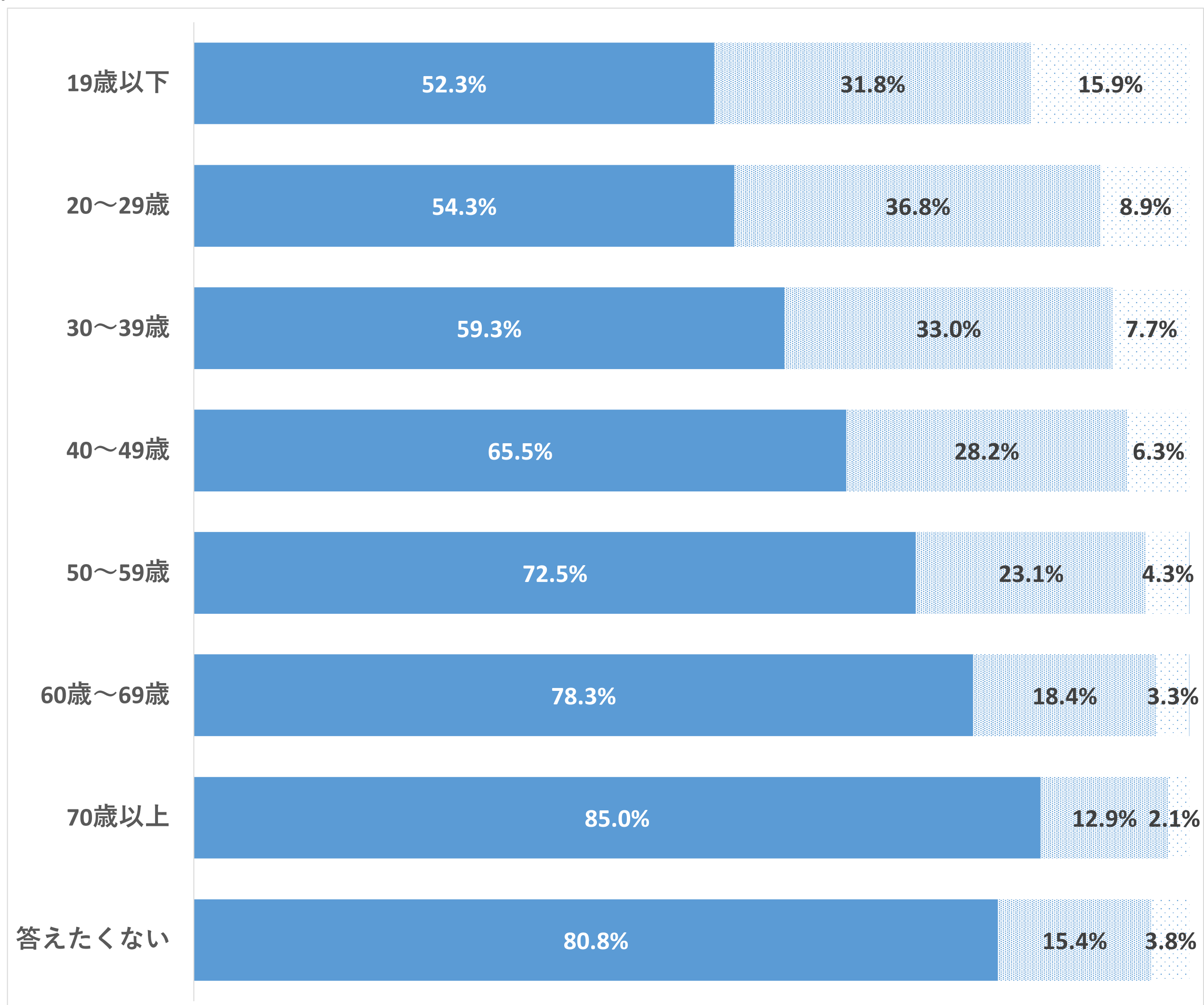
- ◎ 全体では、7割強が「知っているし、お願いどおりに行動している」と回答している。
- ◎ 年代が上がるにつれて「知っているし、お願いどおりに行動している」の回答割合が高くなっており、50代、60代及び70代以上では7割を超えている。
- ※ 下線部分は「第8波の発生状況と対策の振り返り」本編において引用(以下同じ)

- 知っているし、お願いどおりに行動している
- 知っているが、お願いどおりに行動できないときがある
- 感染警戒レベルを聞いたことはあるが、よく分からない
- 感染警戒レベルは聞いたことがない

■ 全体



■ 年代別

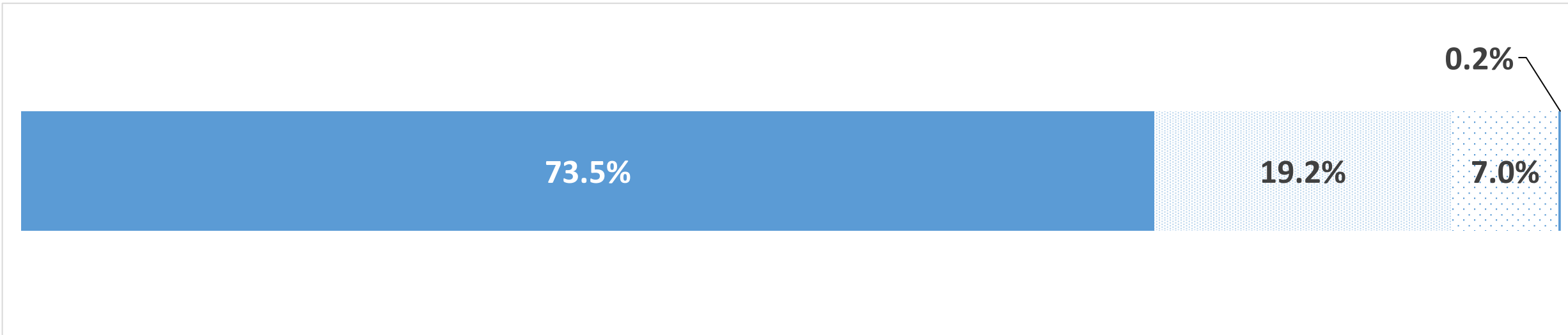


Q2：県では圏域ごとの感染警戒レベルとは別に、全県の確保病床使用率の状況などに応じて「医療警報」などの医療アラート（4段階）を発出し、受診行動にかかるお願いなどを行っていることをご存じですか。

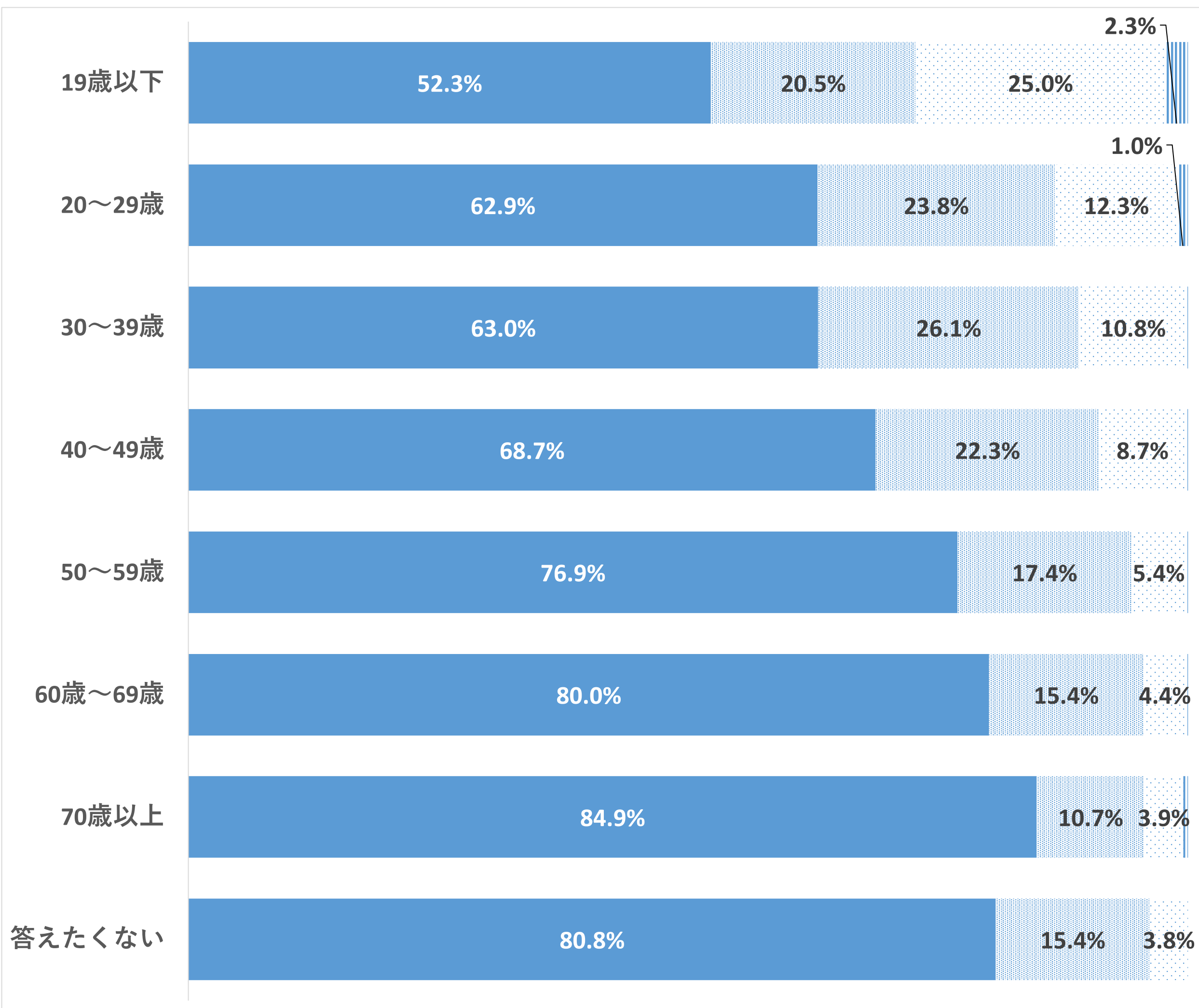
◎ 全体では、7割強が「知っているし、お願いどおりに行動している」と回答している。
 ◎ 年代が上がるにつれて「知っているし、お願いどおりに行動している」の回答割合が高くなっており、60代及び70代以上では8割を超えている。また、10代以下では「医療アラートを聞いたことはあるが、よく分からない」との回答が25%を占めている。

- 知っているし、お願いどおりに行動している
- 知っているが、お願いどおりに行動できないときがある
- 医療アラートを聞いたことはあるが、よく分からない
- 医療アラートは聞いたことがない

■全体



■年代別



◎ 医療非常事態宣言について

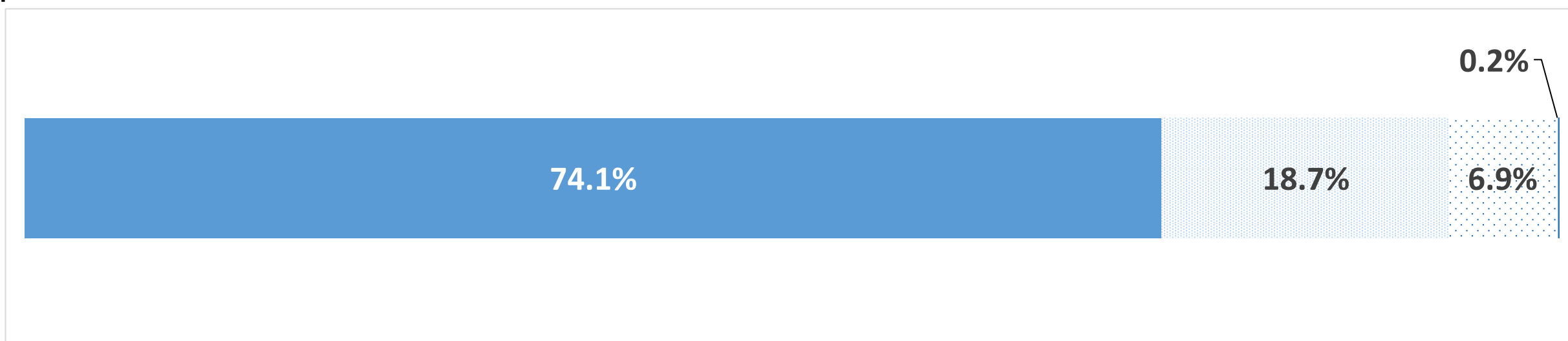
県では、令和4年11月14日から令和5年1月31日までの間、「医療非常事態宣言」を発出し、皆さんに様々なお願いをしました。

Q3：県が医療アラートとして「医療非常事態宣言」を発出し、感染拡大と医療への負荷をできるだけ抑制するため、様々なお願いをしたことをご存じでしたか。

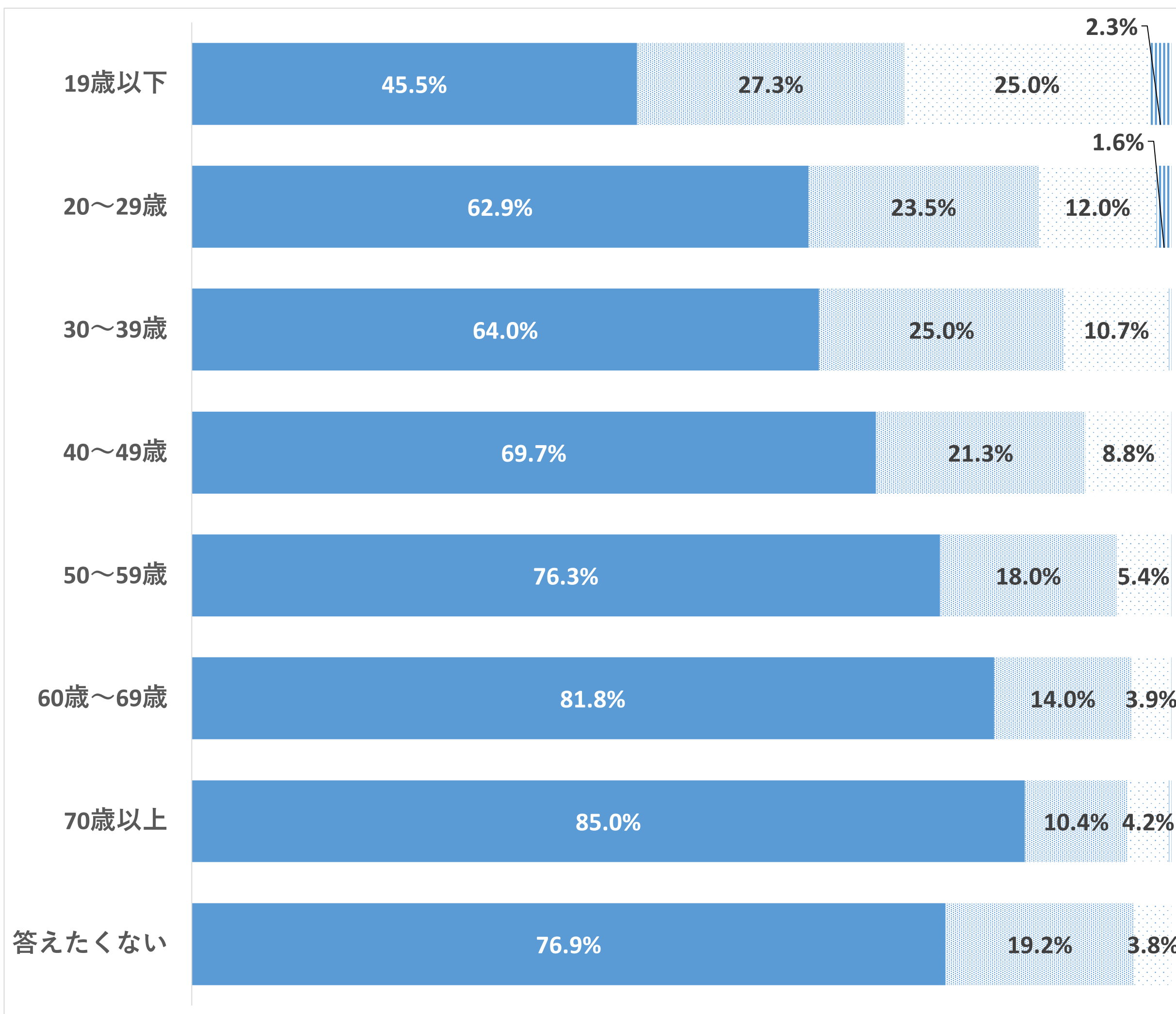
◎ 全体では、7割強が「知っていたし、お願いどおりに行動した」と回答している。
 ◎ 「知っていたし、お願いどおりに行動した」との回答は10代以下を除くすべての年代で6割を超えている。また、10代以下では「「医療非常事態宣言」を聞いたことがあったが、内容がよく分からなかった」との回答が25%を占めている。

- 知っていたし、お願いどおりに行動した
- 知っていたが、お願いどおりに行動できないときがあった
- 「医療非常事態宣言」を聞いたことはあったが、内容がよく分からなかった
- 名称も内容も知らない

■ 全体



■ 年代別

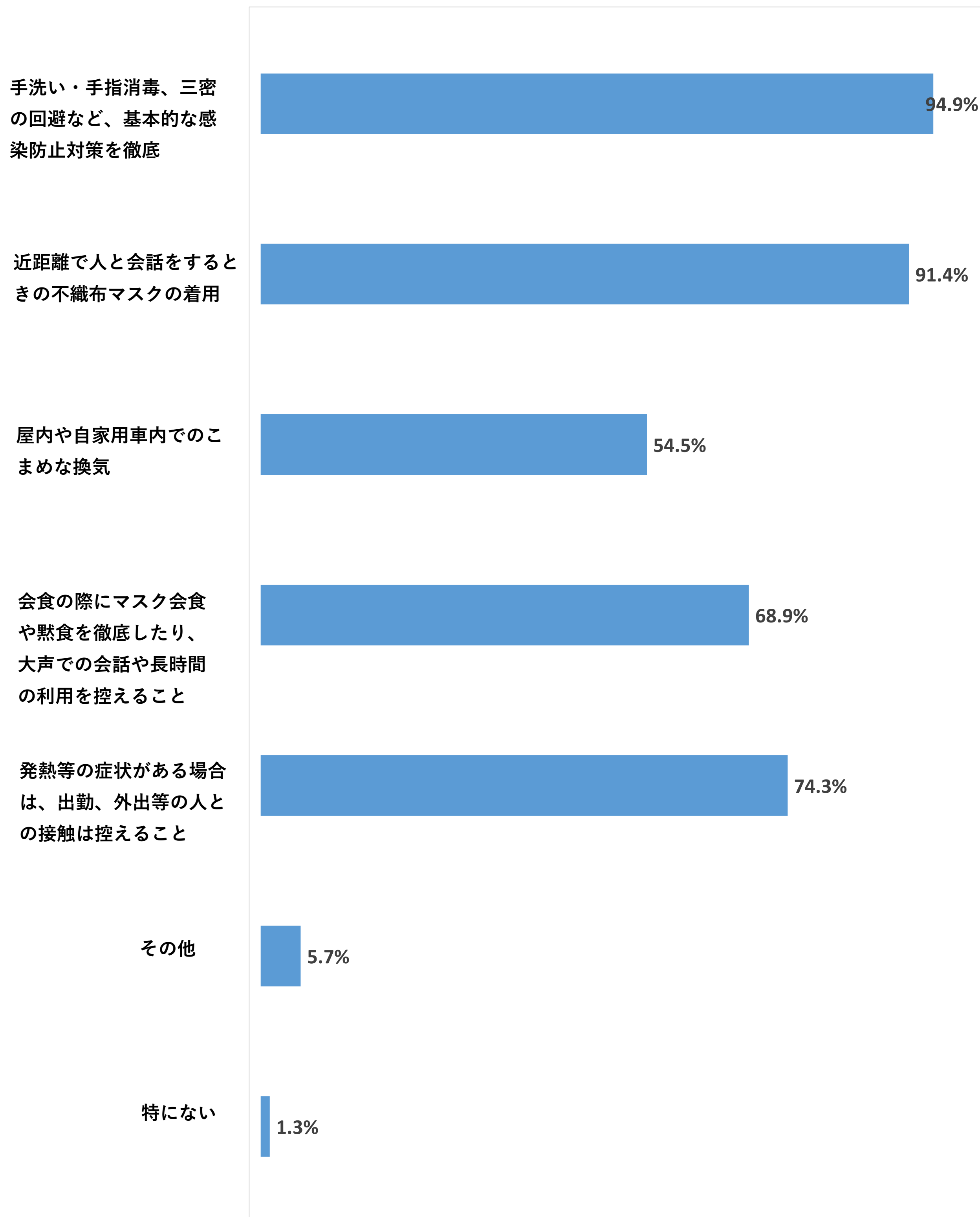


Q4：「医療非常事態宣言」の発出を受けて、実際にあなたが心がけた又は行ったこと（感染防止に関するもの）は何ですか。あてはまるものを全て選択してください。

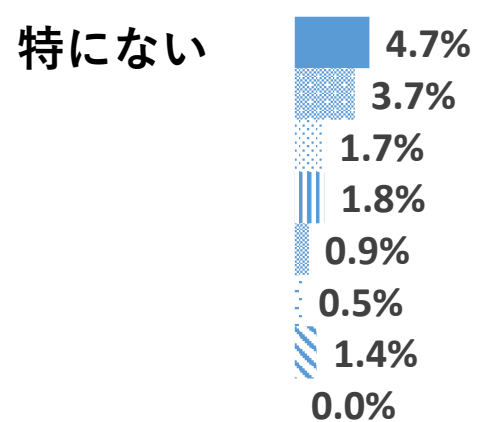
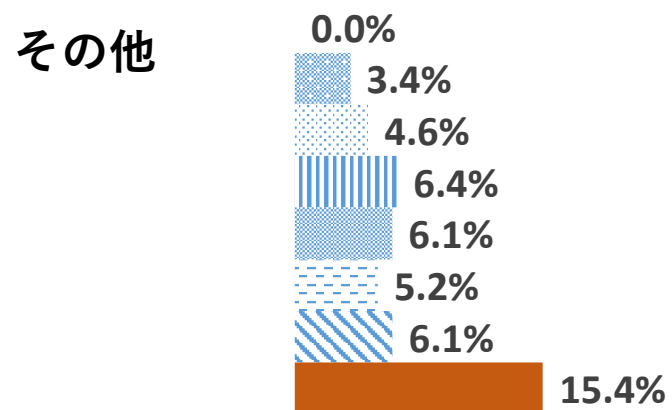
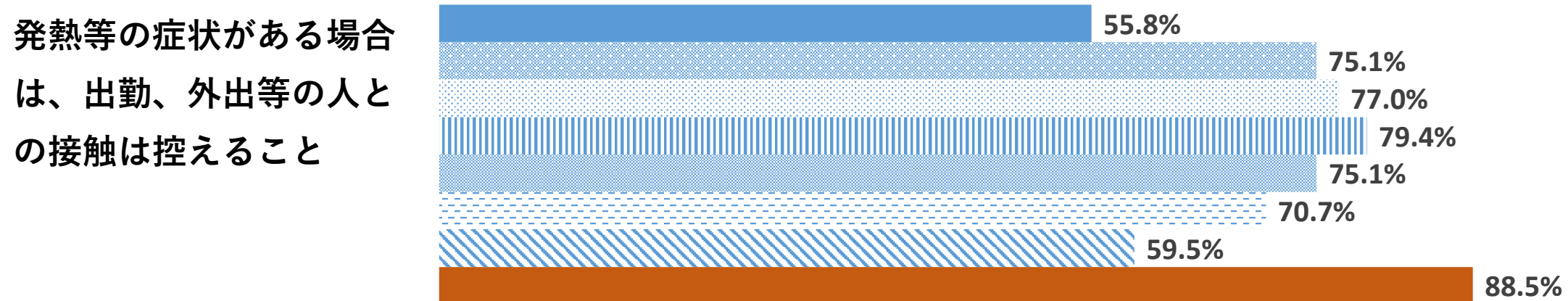
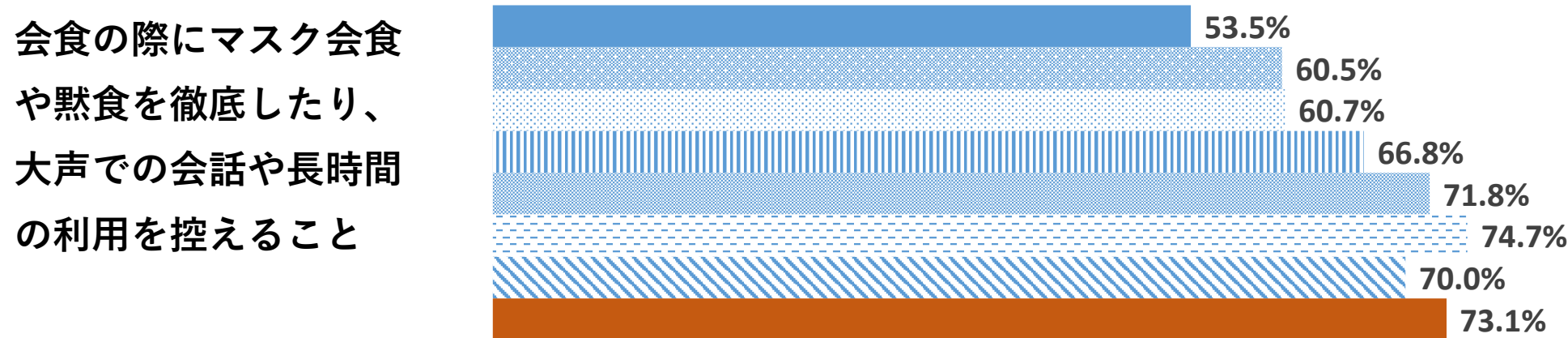
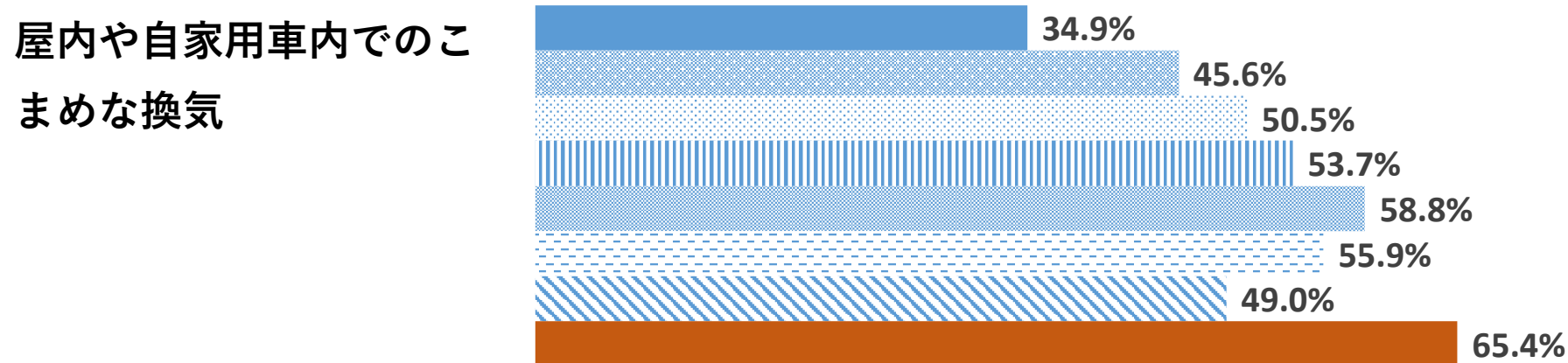
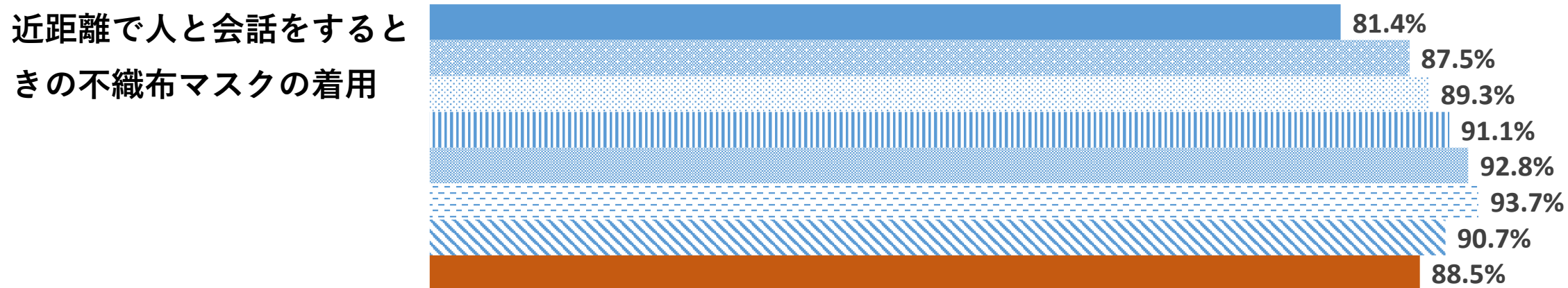
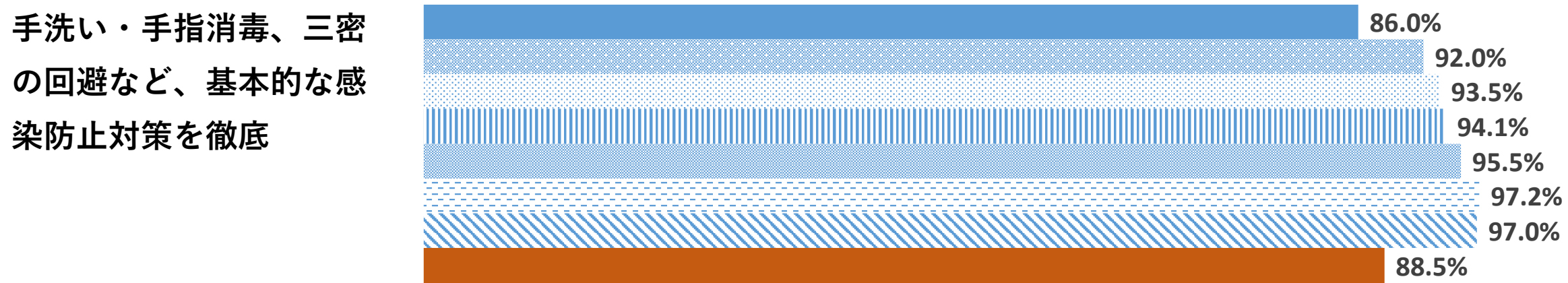
◎ 全体では、「手洗い・手指消毒、三密の回避など、基本的な感染防止対策を徹底」、「近距離で人と会話をするときの不織布マスクの着用」がそれぞれ9割強で、高い割合となっている一方、「屋内や自家用車内でのこまめな換気」との回答は5割程度となっている。

◎ 「屋内や自家用車内でのこまめな換気」及び「会食の際にマスク会食や黙食を徹底したり、大声での会話や長時間の利用を控えること」については、年代が上がるにつれて回答割合が高くなる傾向が見られる。

■全体



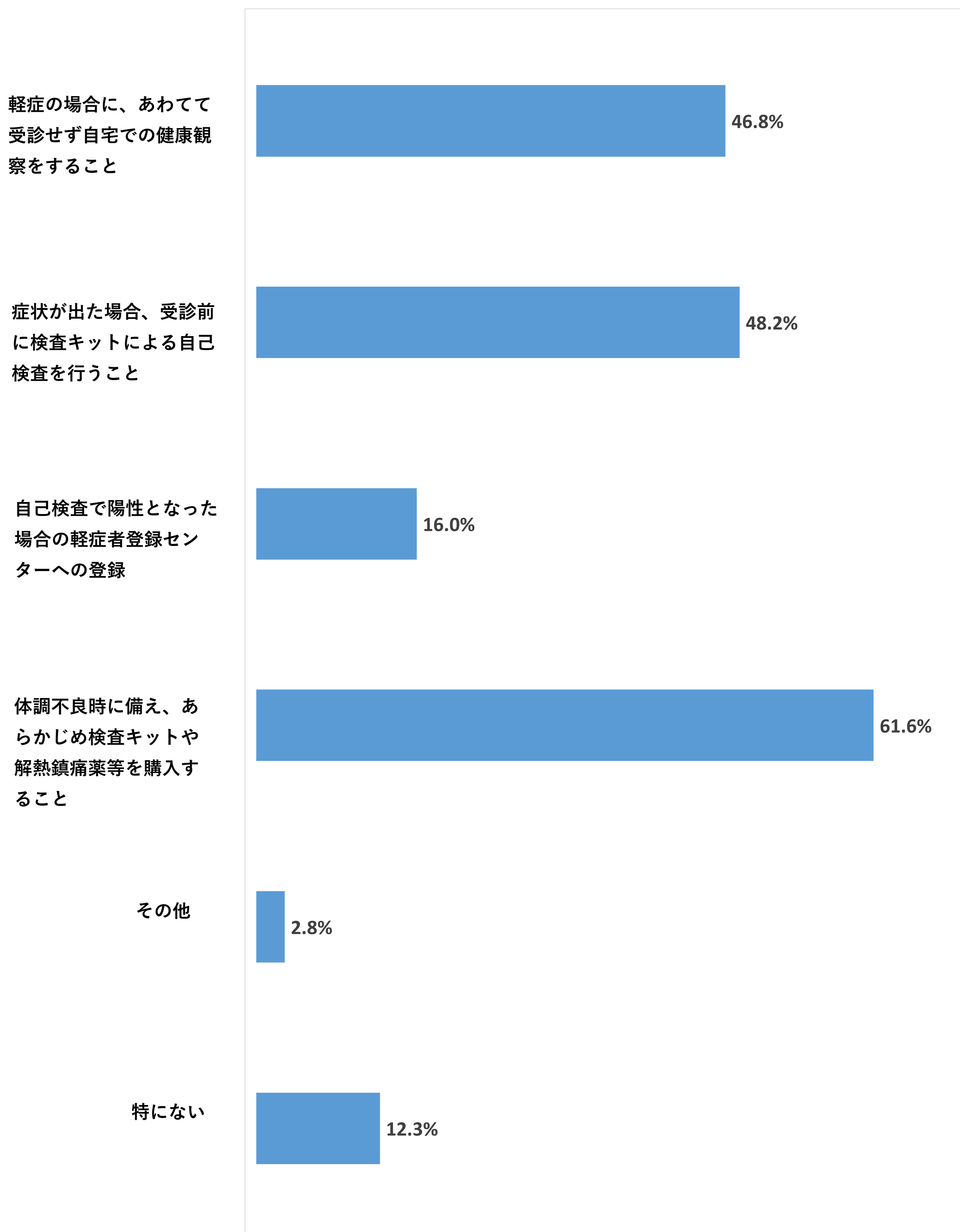
■年代別



Q5：「医療非常事態宣言」の発出を受けて、実際にあなたが心がけた又は行ったこと（医療負担軽減に関するもの）は何ですか。あてはまるものを全て選択してください。

◎ 全体では、「体調不良時に備え、あらかじめ検査キットや解熱鎮痛薬等を購入すること」が6割強となっている一方、「自己検査で陽性となった場合の軽症者登録センターへの登録」は2割弱となっている。
◎ 年代別では、70代以上において「症状が出た場合、受診前に検査キットによる自己検査を行うこと」が約35%、「体調不良時に備え、あらかじめ検査キットや解熱鎮痛薬等を購入すること」が約45%と、他の年代と比較して回答割合が低くなっている。また、「特にない」との回答割合は、10代以下（27.9%）が最も高く、次いで70代以上（21.5%）となっている。

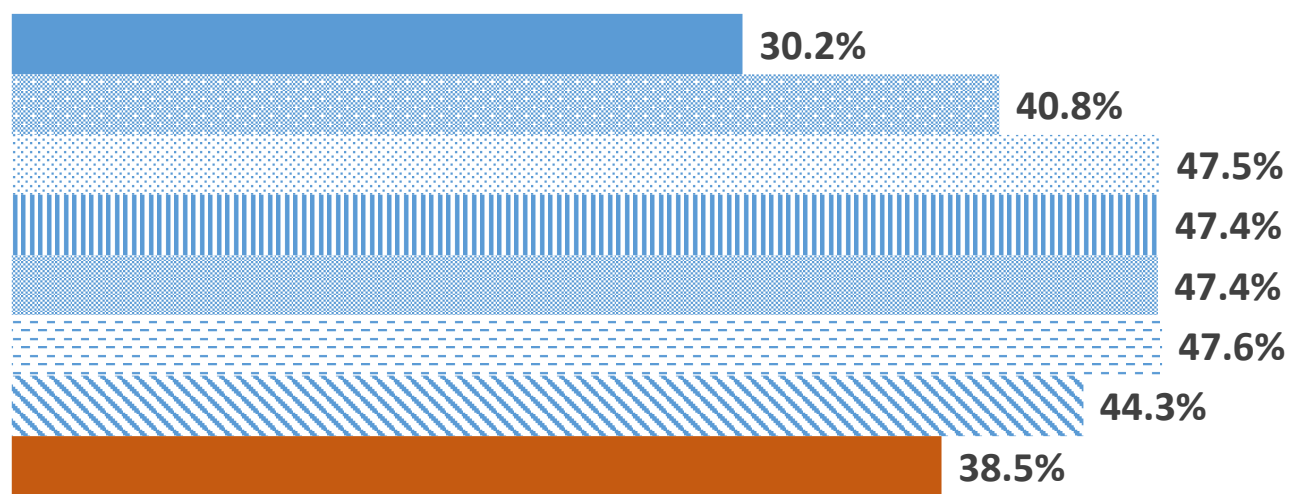
■全体



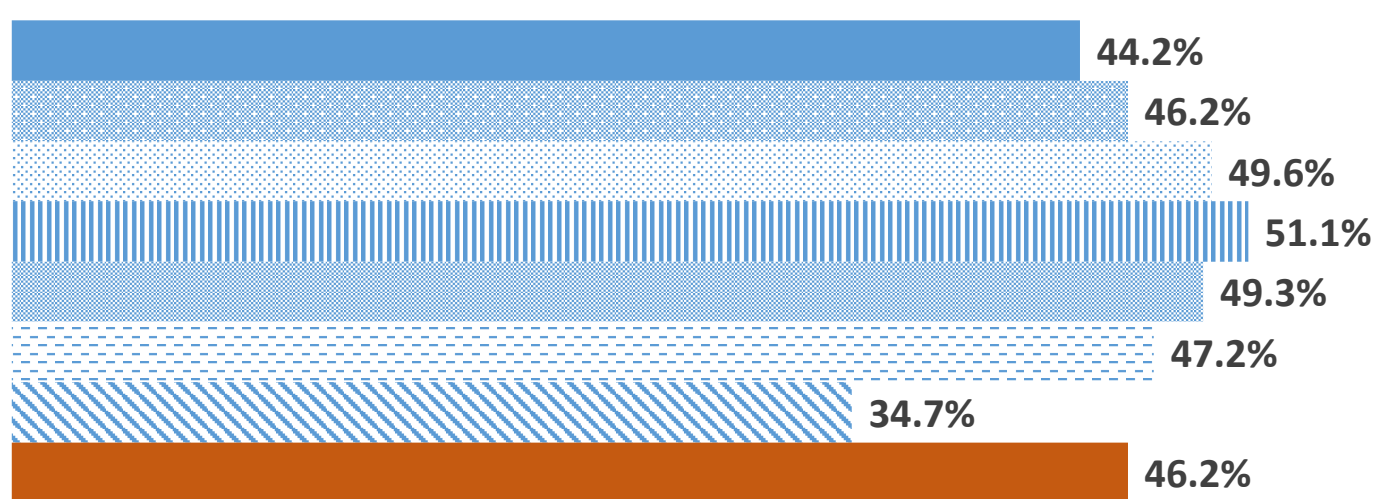
■年代別



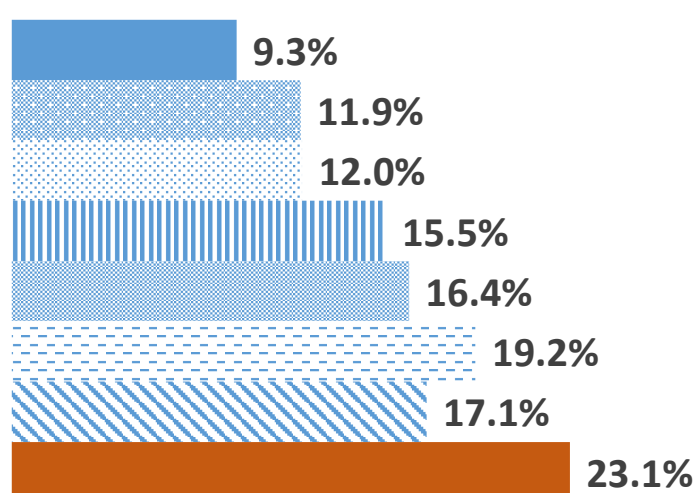
軽症の場合に、あわてて受診せず自宅での健康観察をすること



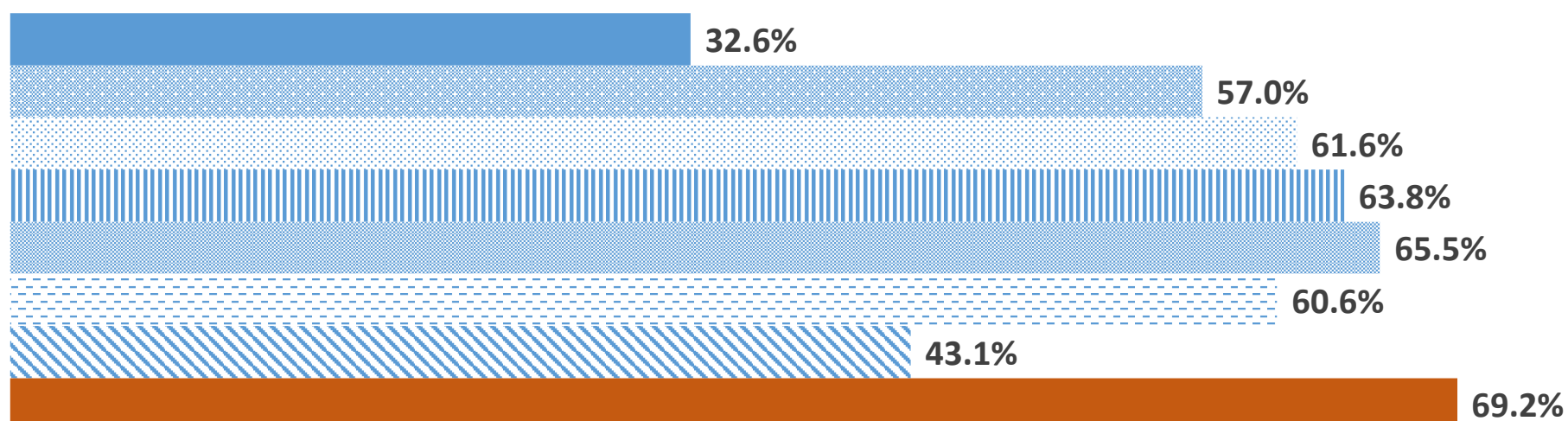
症状が出た場合、受診前に検査キットによる自己検査を行うこと



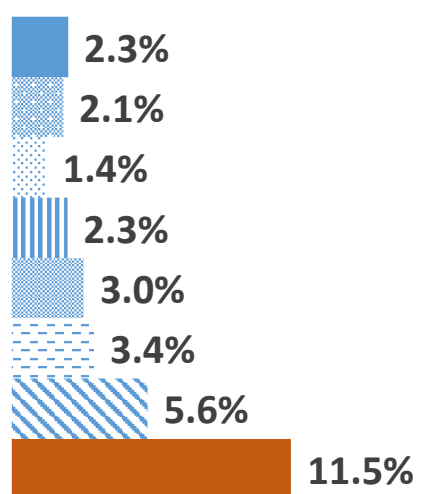
自己検査で陽性となった場合の軽症者登録センターへの登録



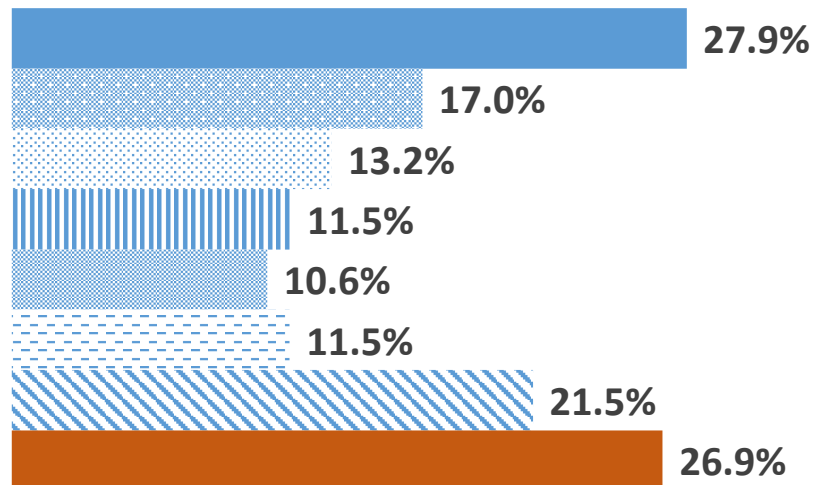
体調不良時に備え、あらかじめ検査キットや解熱鎮痛薬等を購入すること



その他



特にない



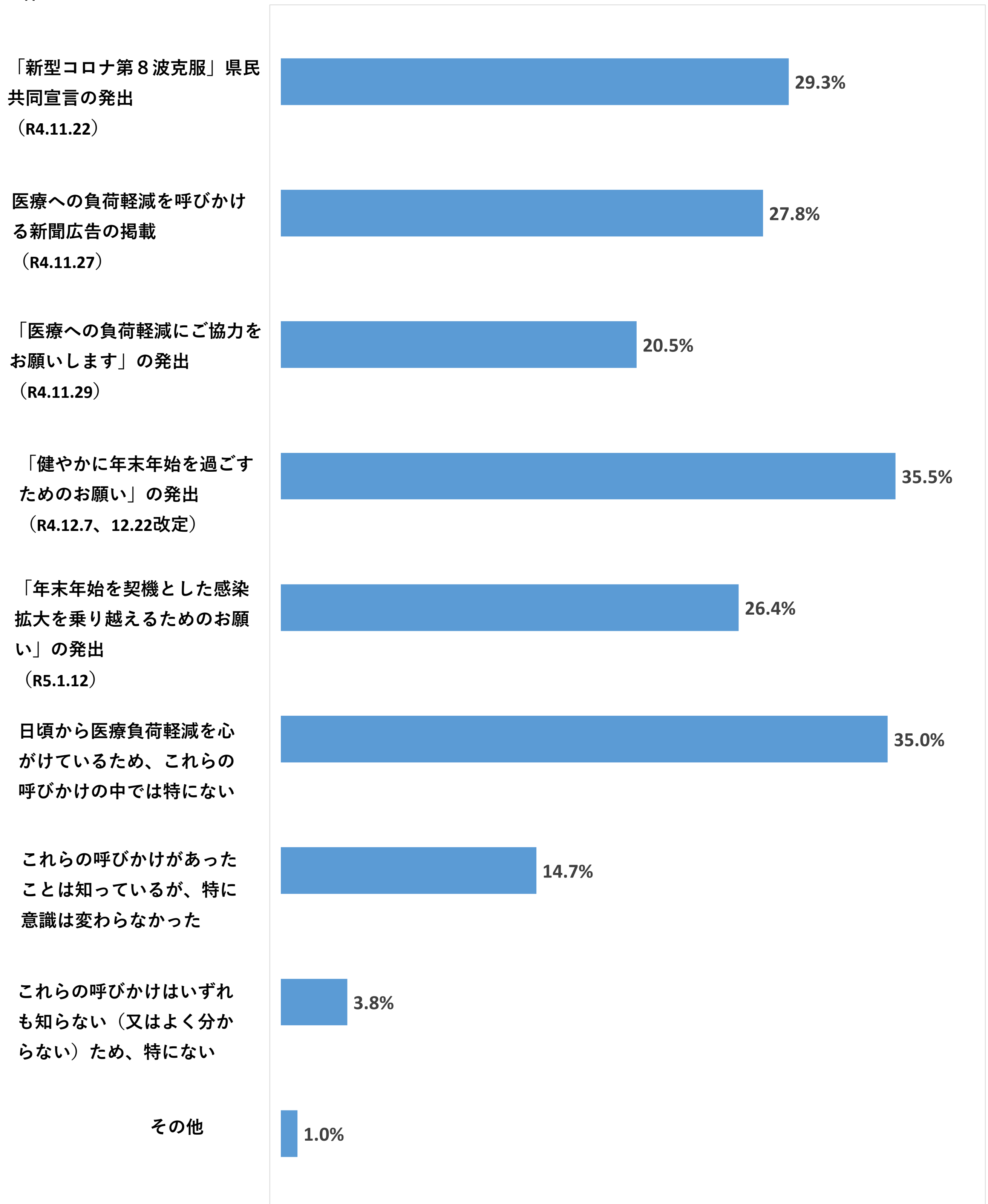
Q6：県では「医療非常事態宣言」の発出中、医療への負荷軽減にご協力いただくため、県民の皆様に向けた様々な呼びかけを行いました。

以下のうち、あなたが「医療負荷軽減を心がけよう」と意識した呼びかけは何ですか。あてはまるものを全て選択してください。

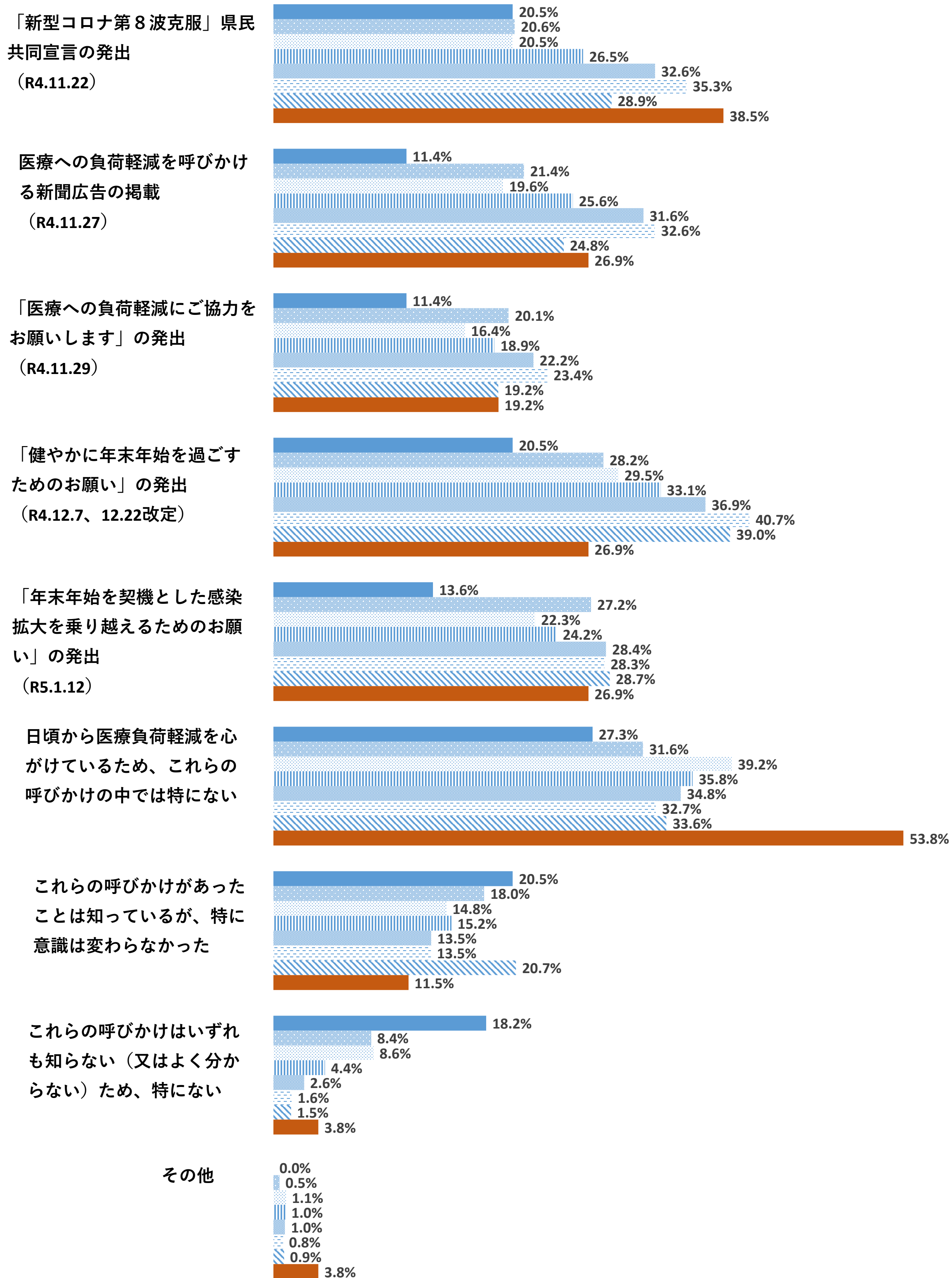
◎ 全体では、「「健やかに年末年始を過ごすためのお願い」の発出」、「日頃から医療負荷軽減を心がけているため、これらの呼びかけの中では特にない」との回答がそれぞれ35%程度となっている。「これらの呼びかけはいずれも知らない（又はよく分からない）ため、特にない」との回答割合は4%弱となっている。

◎ 年代別では、10代以下において「これらの呼びかけがあったことは知っているが、特に意識は変わらなかった」、「これらの呼びかけはいずれも知らない（又はよく分からない）ため、特にない」がそれぞれ約20%と、他の年代と比較して回答割合が高くなっている。

■全体



■年代別



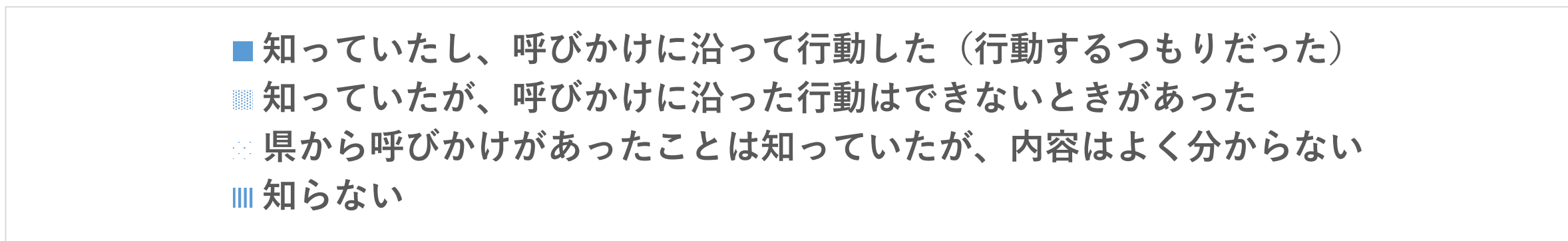
Q7：県では「医療非常事態宣言」の発出中、ご自身の重症化リスクに応じた受診行動（リスクの高い方※は体調に異変を感じた場合速やかに受診、リスクの低い方はできるだけ検査キットで自己検査し陽性の場合軽症者登録センターに登録・自宅での健康観察）を繰り返し呼びかけました。

このような呼びかけがあったことをご存じでしたか。

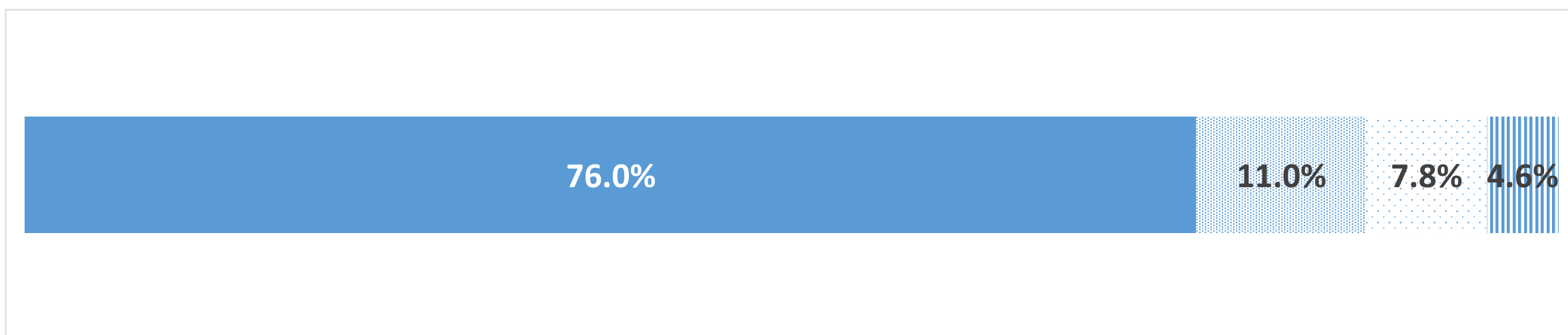
※重症化リスクが高い方に該当する疾患等は次のとおりです。
 65歳以上、悪性腫瘍、慢性呼吸器疾患(COPD等)、慢性腎臓病、心血管疾患、脳血管疾患、糖尿病、脂質異常症、臓器の移植・免疫抑制剤・抗がん剤等の使用、その他による免疫機能の低下、喫煙歴、妊婦、肥満(BMI:30以上)

◎ 全体では、8割弱が「知っていたし、呼びかけに沿って行動した（行動するつもりだった）」と回答している。

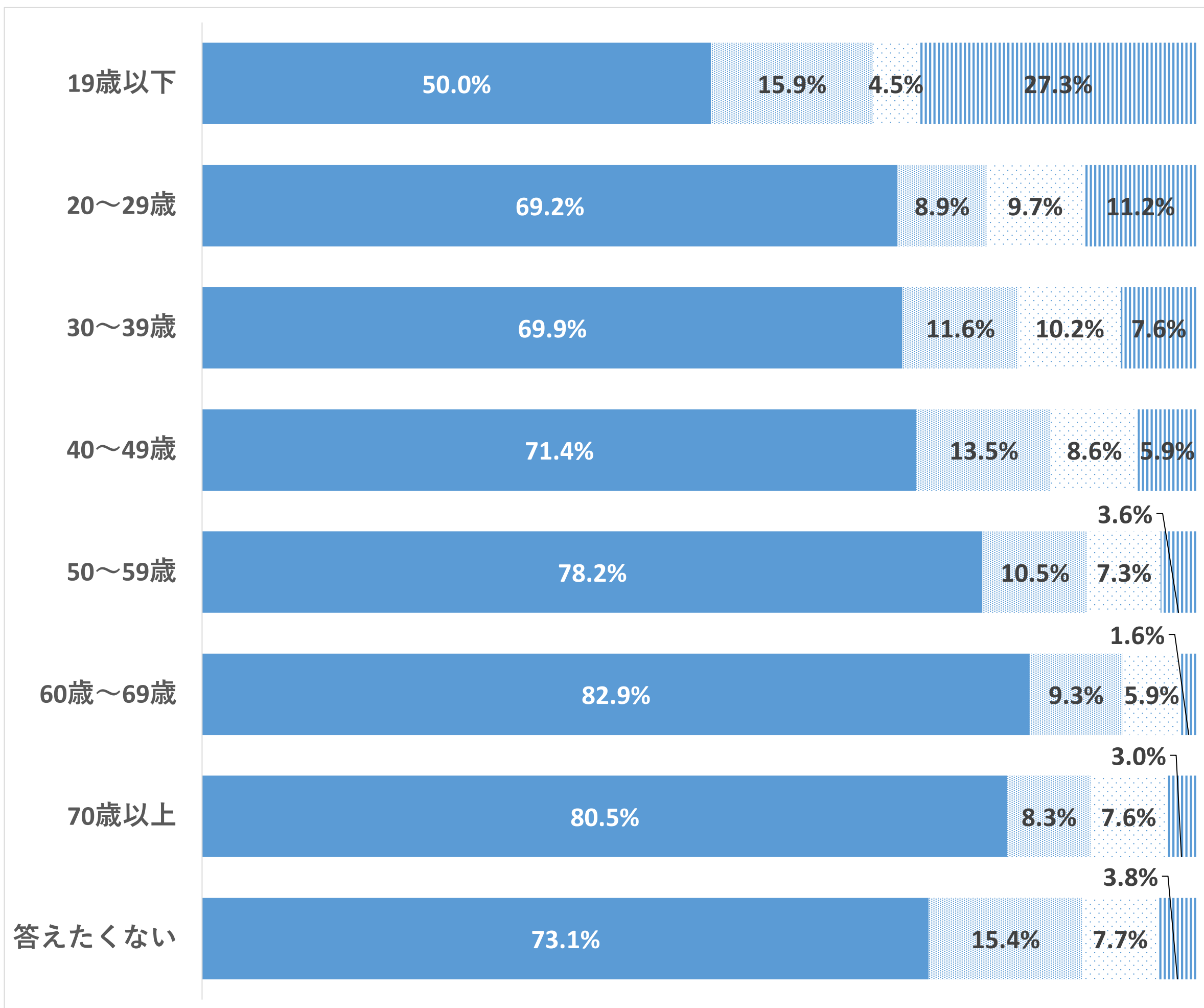
◎ 「知っていたし、呼びかけに沿って行動した（行動するつもりだった）」との回答は、60代及び70代以上で8割を超えているが、30代以下ではいずれの年代でも7割を下回っており、特に10代以下では5割となっている。



■全体



■年代別



【ワクチン接種関係について】

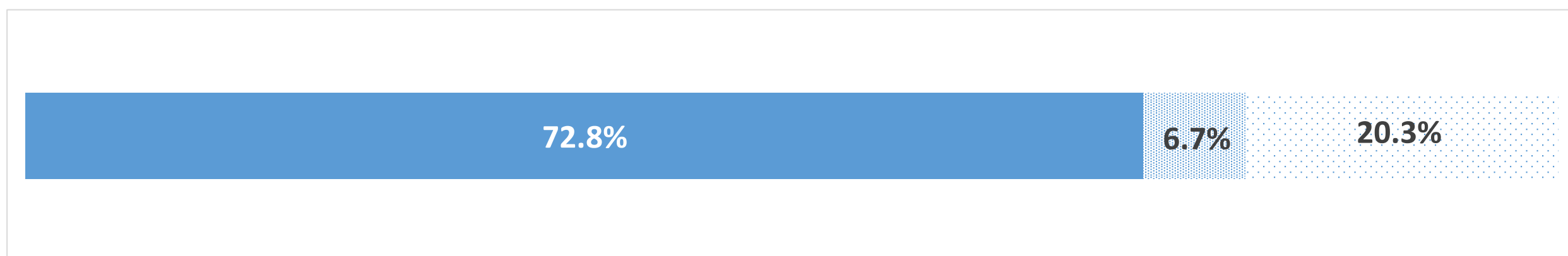
新型コロナワクチン接種については、国において来年度以降の接種について議論が進められています。
今後のワクチン接種に向けた参考とするため、以下についてお伺いします。

Q8：あなたはオミクロン株対応ワクチンの接種を受けましたか。あてはまるものを1つ選択してください。

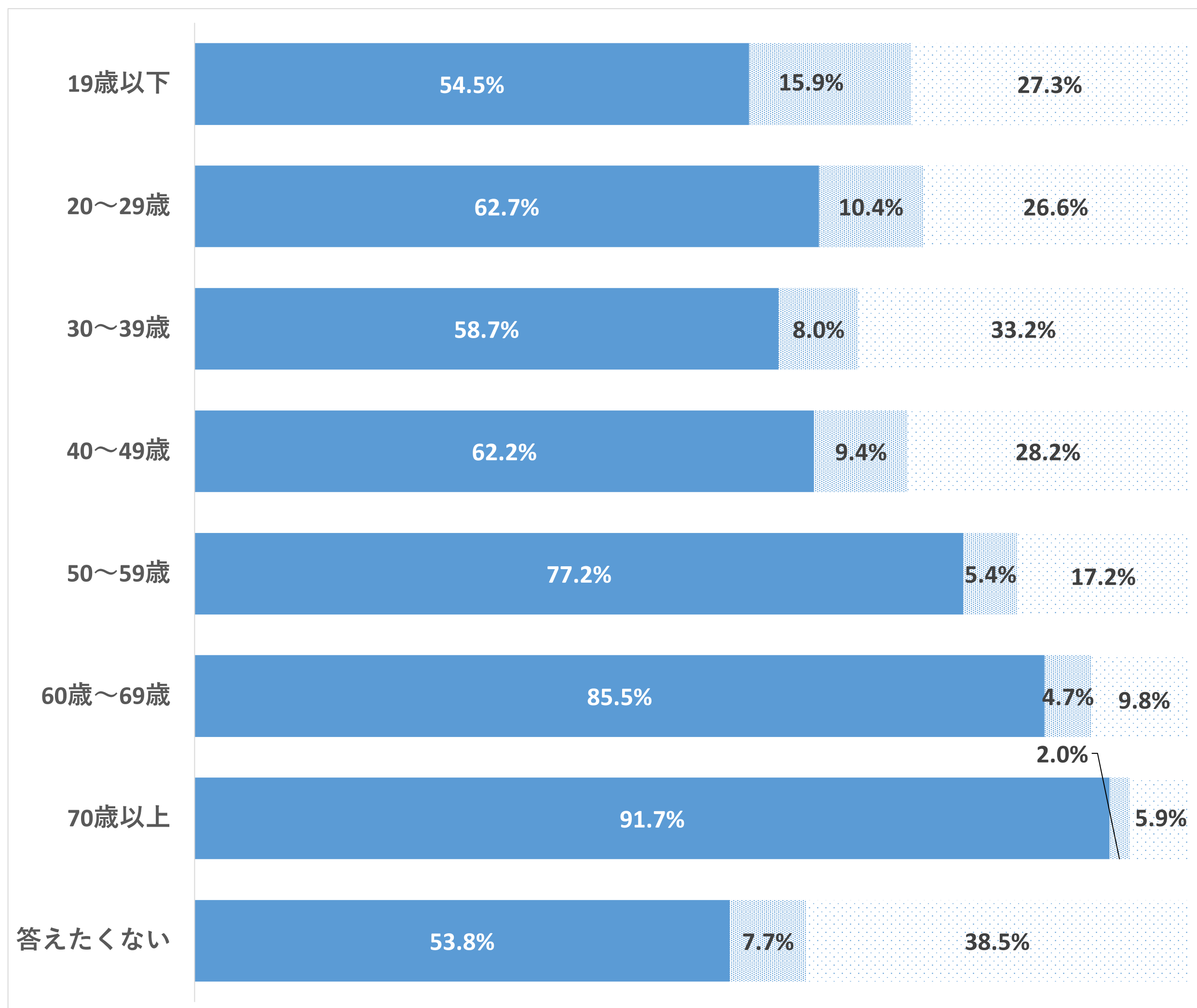
◎ 全体では、7割強が「すでに接種済み」、1割弱が「これから接種予定」と回答している。
◎ 年代が上がるにつれて「すでに接種済み」の回答割合が高くなる傾向にあり、60代及び70代以上では8割を超えている。

■ すでに接種済み ■ これから接種予定 ■ 接種予定なし/接種を受けることができない

■全体



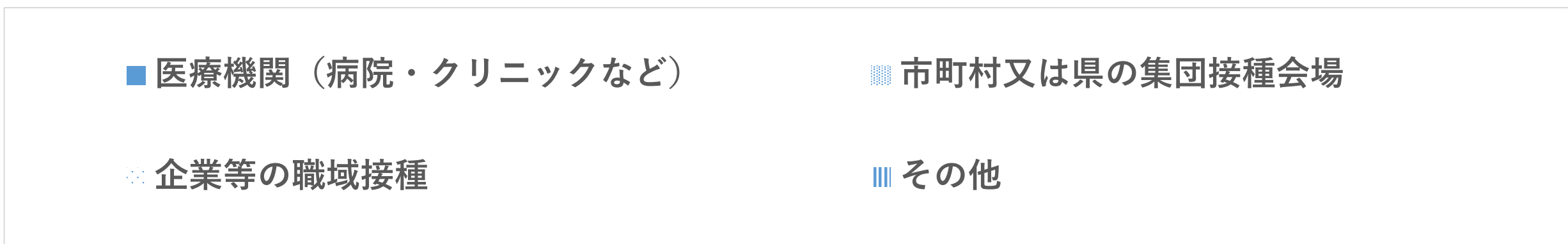
■年代別



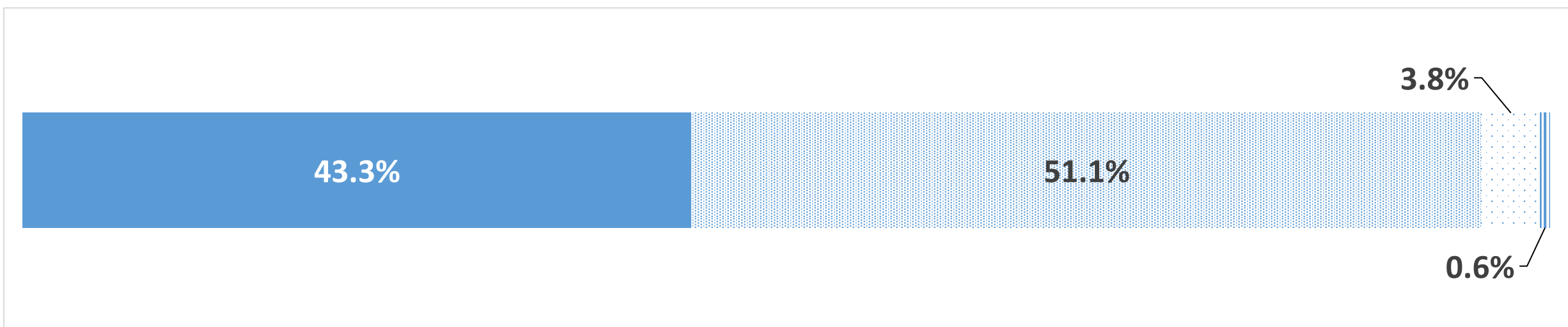
Q9：Q8で「すでに接種済み」又は「これから接種予定」を選ばれた方にお伺いします。

どこでオミクロン株対応ワクチンの接種を受けましたか。あるいは、受ける予定ですか。あてはまるものを1つ選択してください。

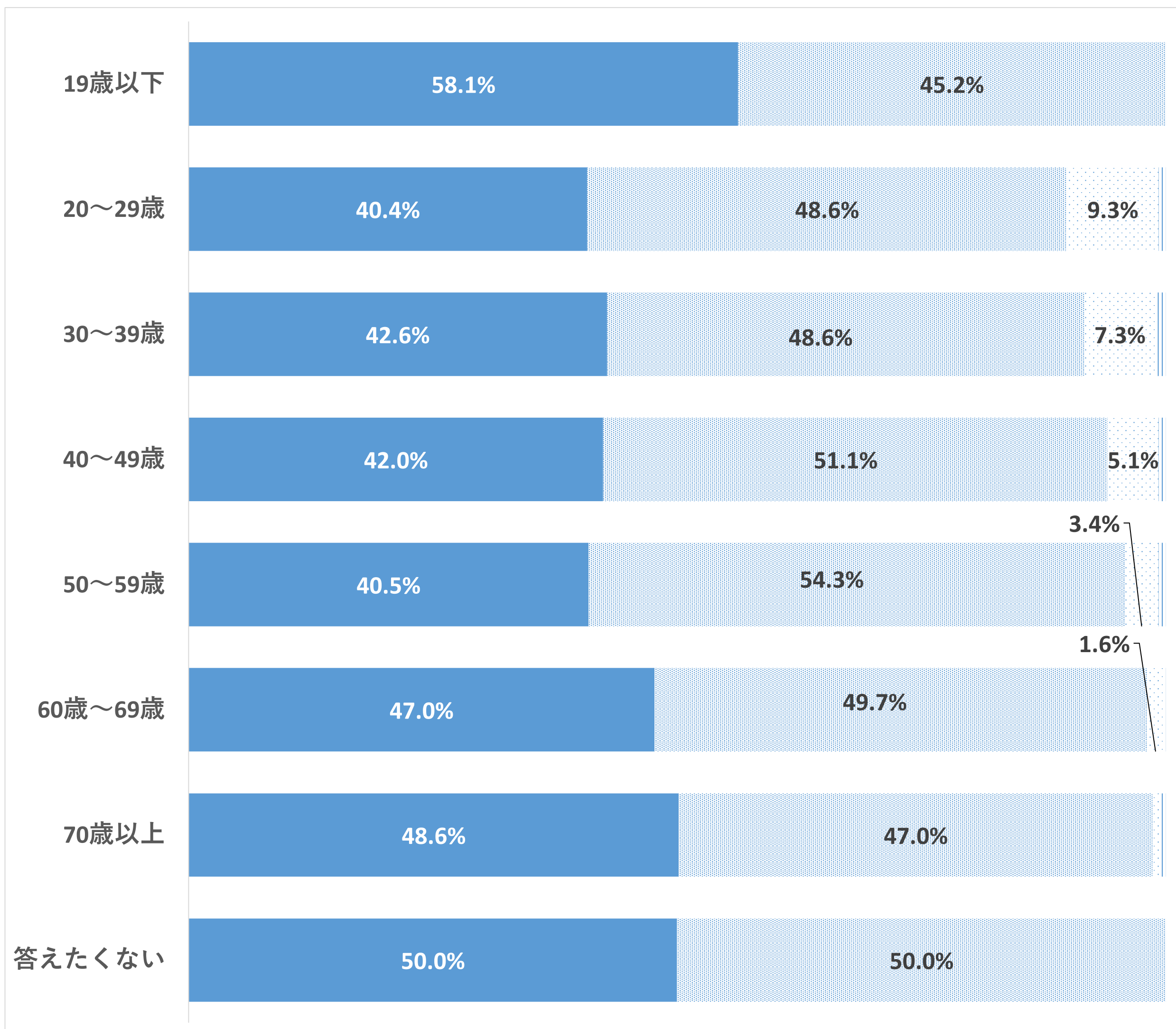
◎ 全体では、4割強が「医療機関（病院・クリニックなど）」、5割強が「市町村又は県の集団接種会場」と回答している。
 ◎ 「医療機関（病院・クリニックなど）」との回答割合は、10代以下では6割弱、60代及び70代以上では5割弱と、他の年代と比較して高くなっている。



■全体



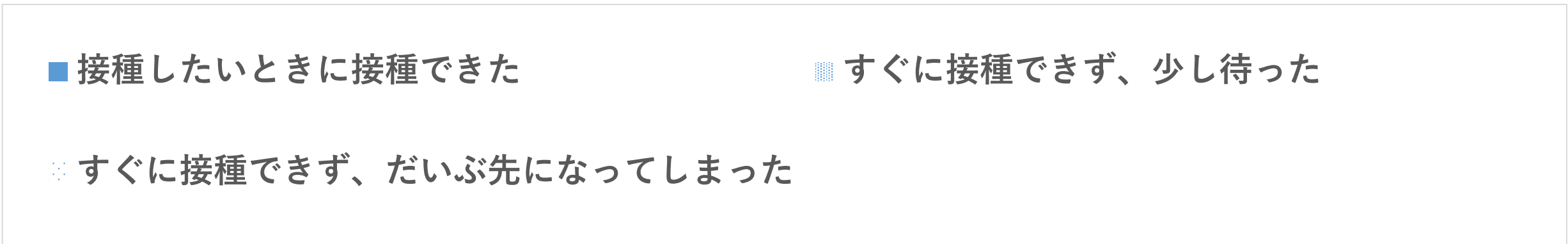
■年代別



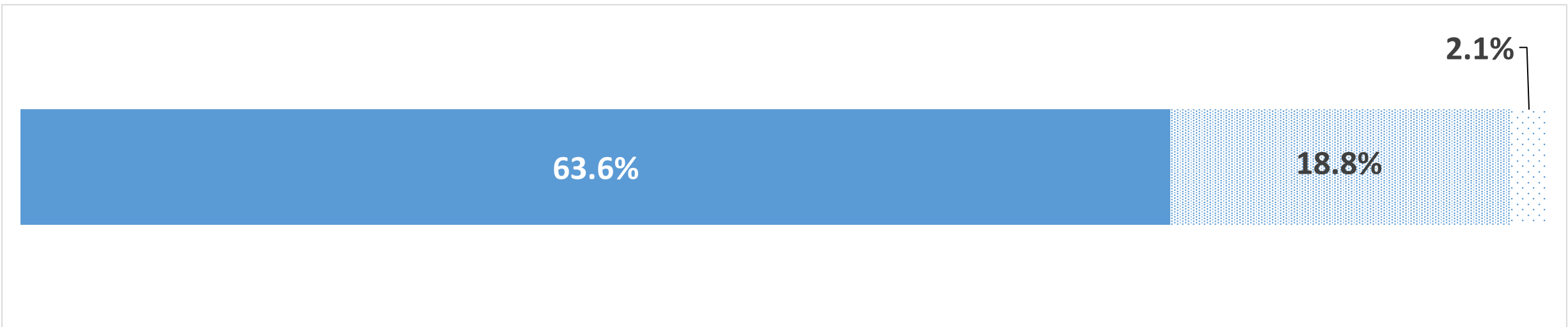
Q10：Q8で「すでに接種済み」を選ばれた方にお伺いします。

希望する時期に予約が取れない、接種を受けられないことがありましたか。あてはまるものを1つ選択してください。

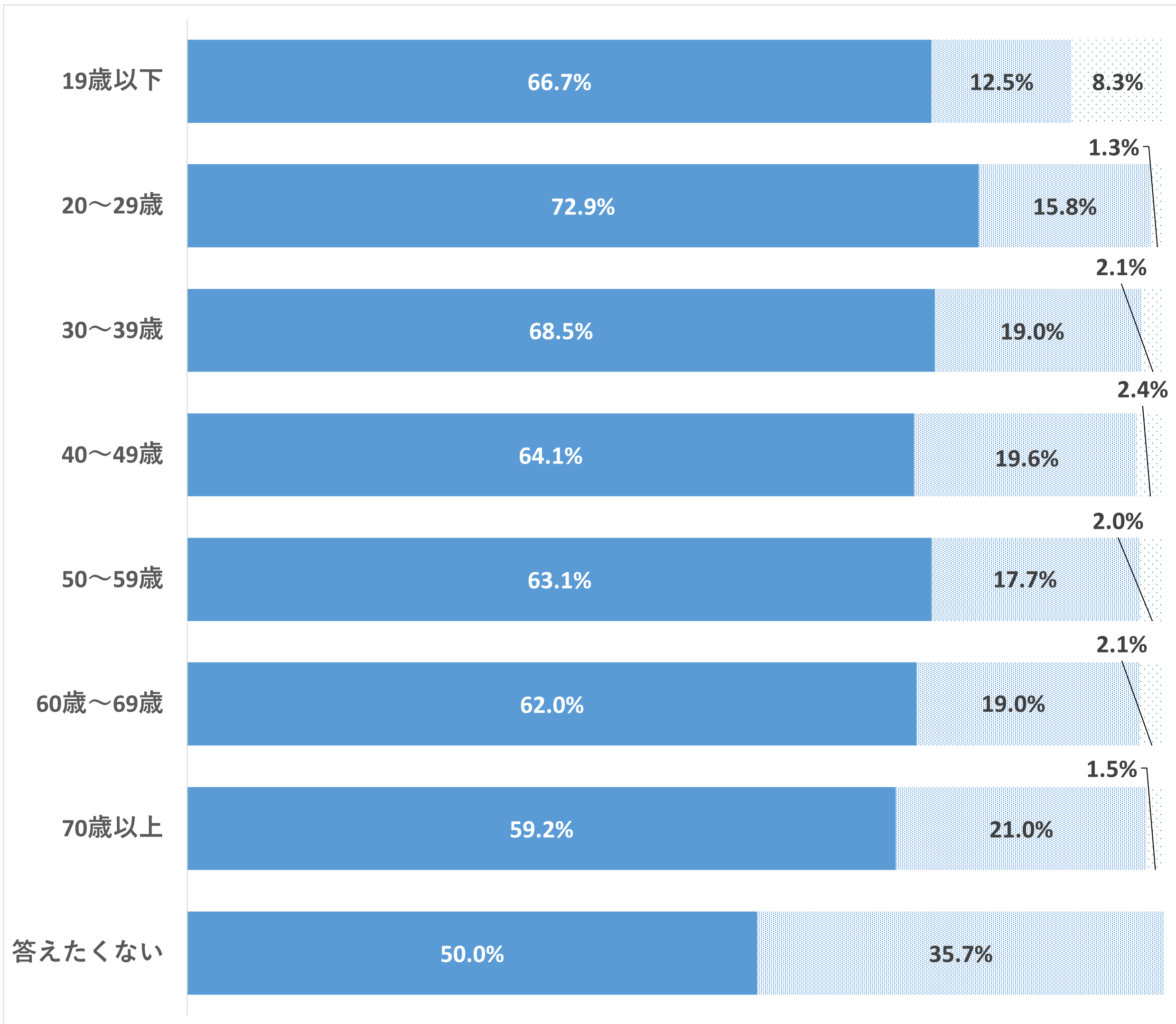
◎ 全体では、6割強が「接種したいときに接種できた」と回答している。
 ◎ 年代が上がるにつれて「接種したいときに接種できた」の回答割合が低くなる傾向にあり、70代以上では6割未満となっている。



■全体



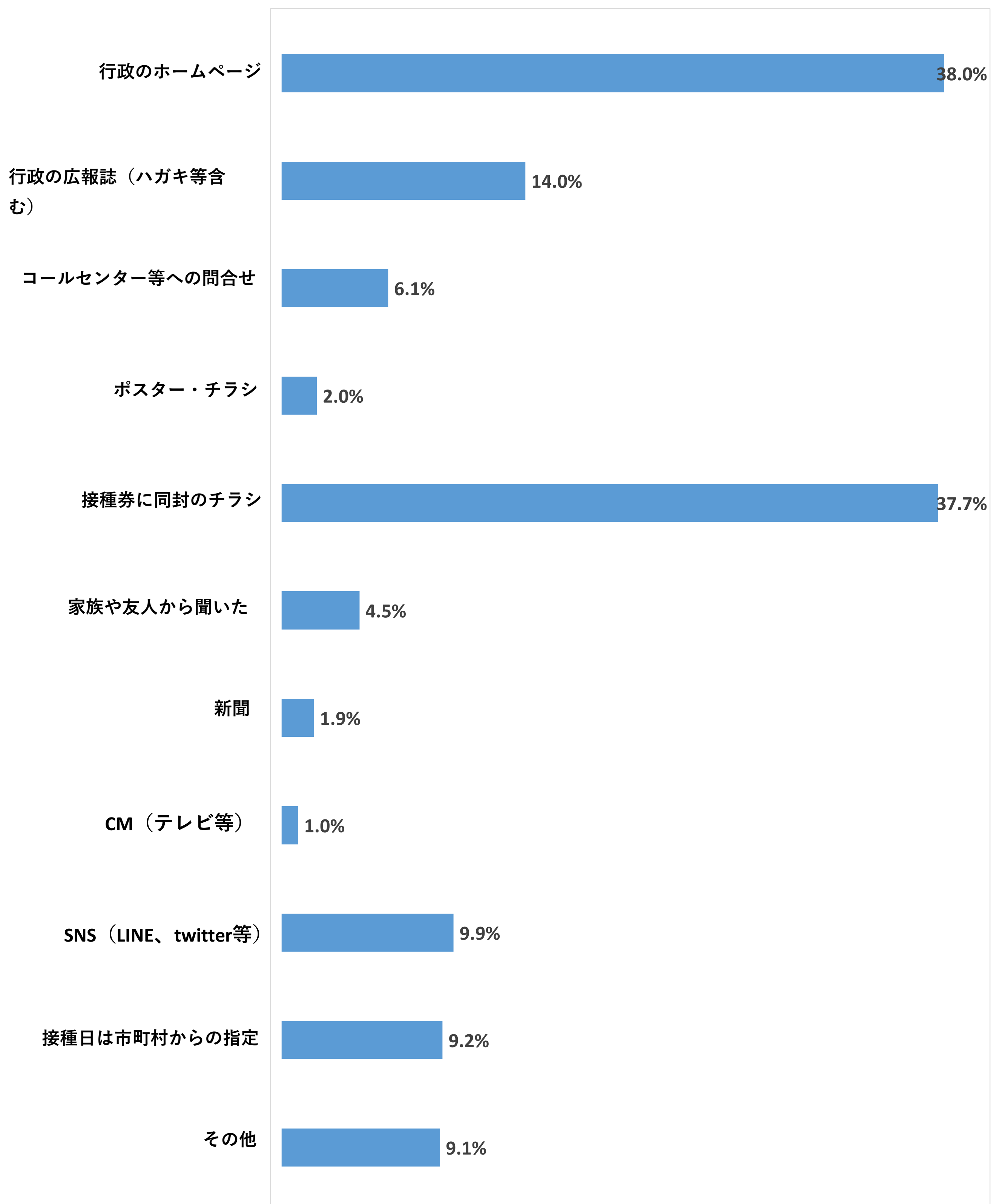
■年代別



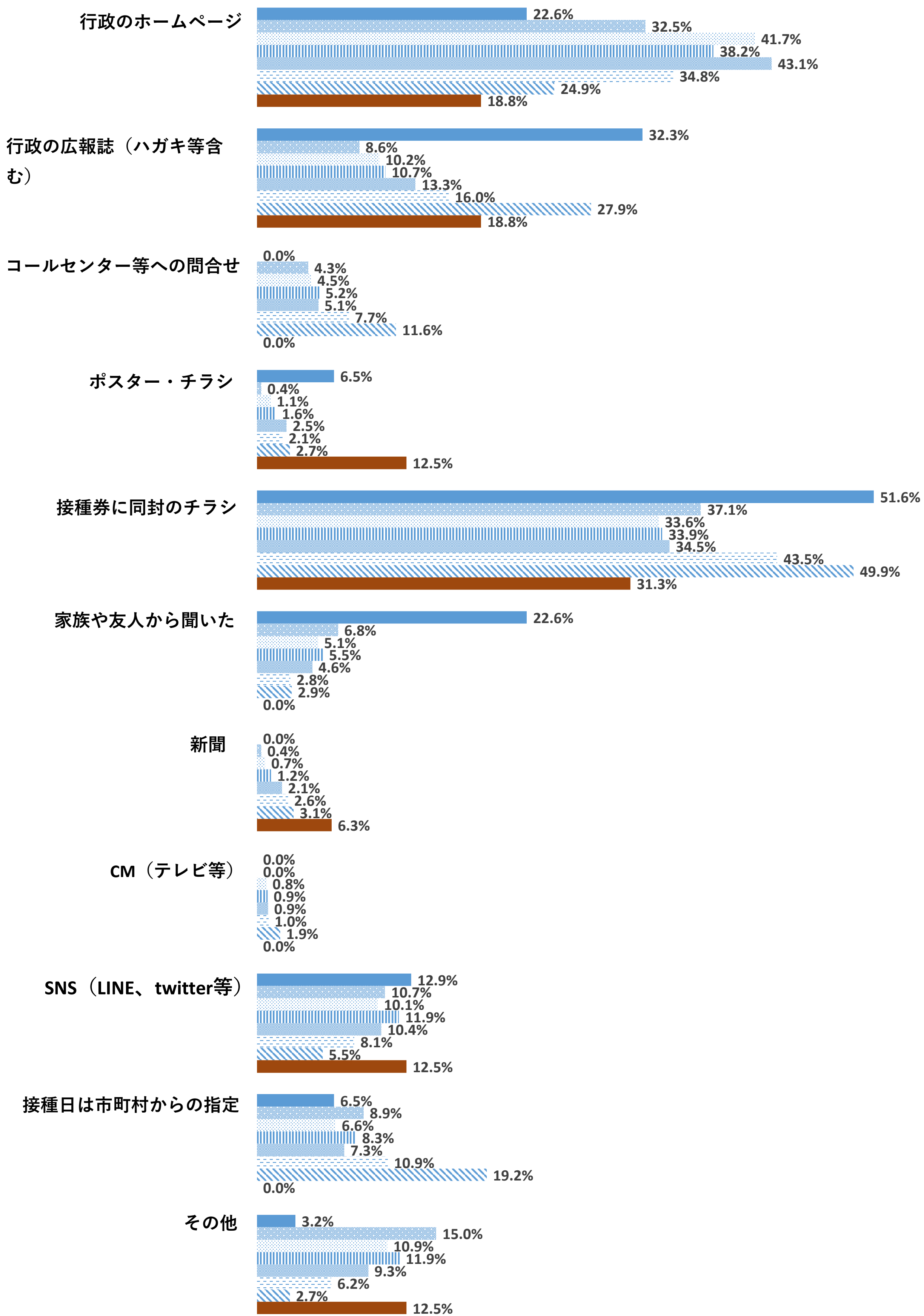
Q11：Q8で「すでに接種済み」又は「これから接種予定」を選ばれた方にお伺いします。
接種日はどの情報から決めましたか。あてはまるものを全て選択してください。

◎ 全体では、「行政のホームページ」、「接種券に同封のチラシ」の回答割合が高くなっている。

■全体



■年代別

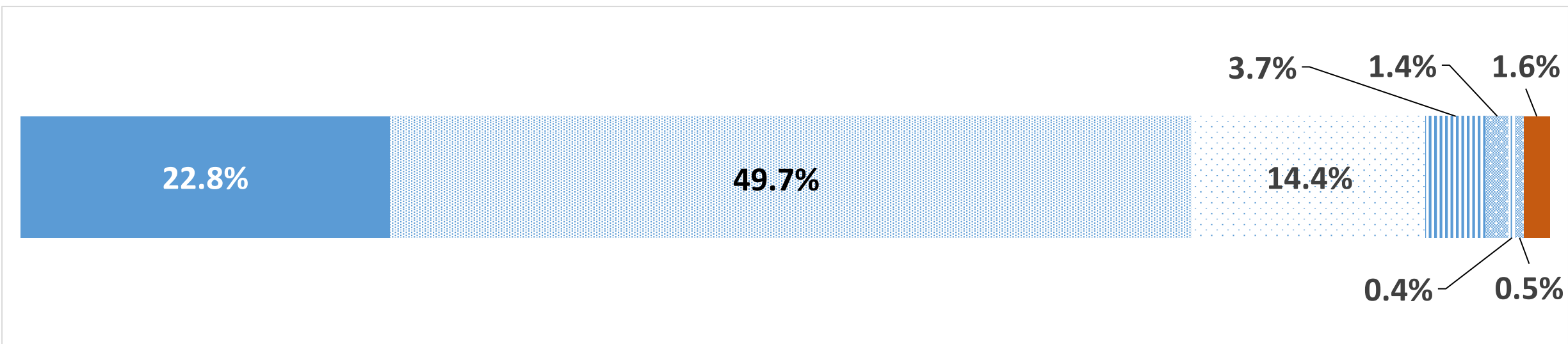


Q12：Q8で「すでに接種済み」又は「これから接種予定」を選ばれた方にお伺いします。
 接種した理由又は希望する理由として、最もあてはまるものを1つ選択してください。

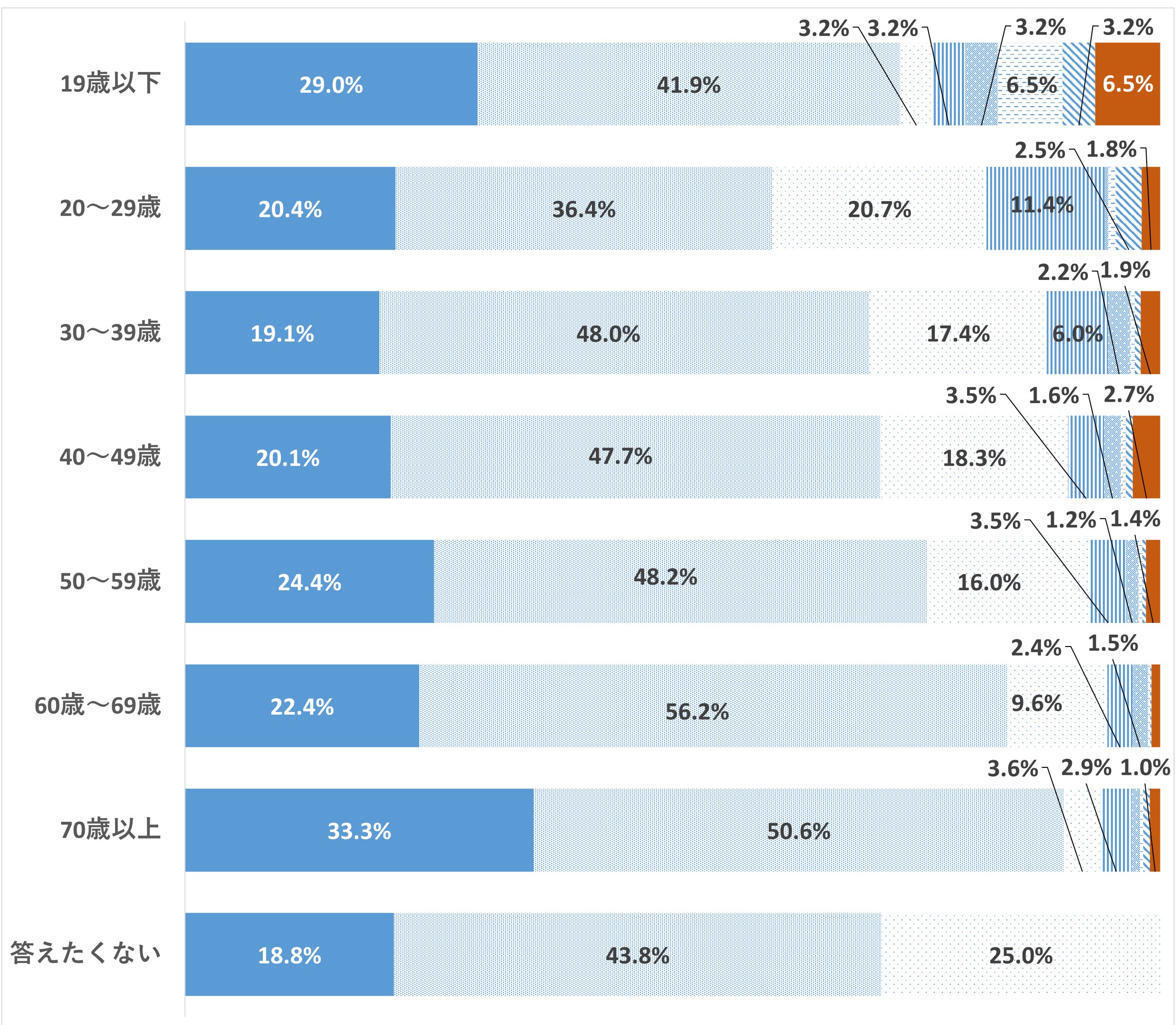
- ◎ 全体では、5割弱が「感染したとき重症化したくないから」、2割強が「感染したくないから」と回答している。
- ◎ 「仕事などの関係で必要だから」の回答割合は、20代、30代及び40代において比較的高くなっている。



■全体



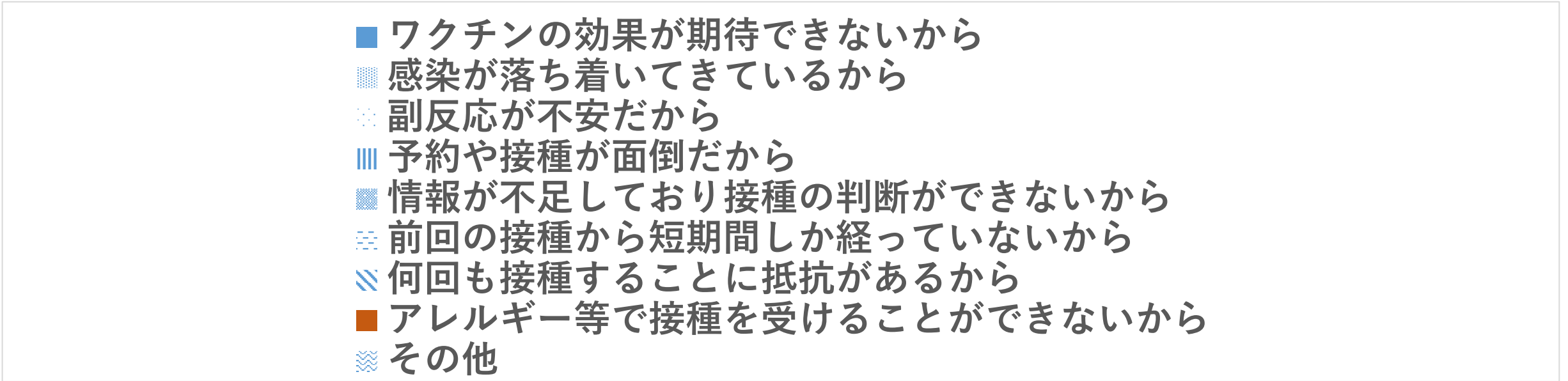
■年代別



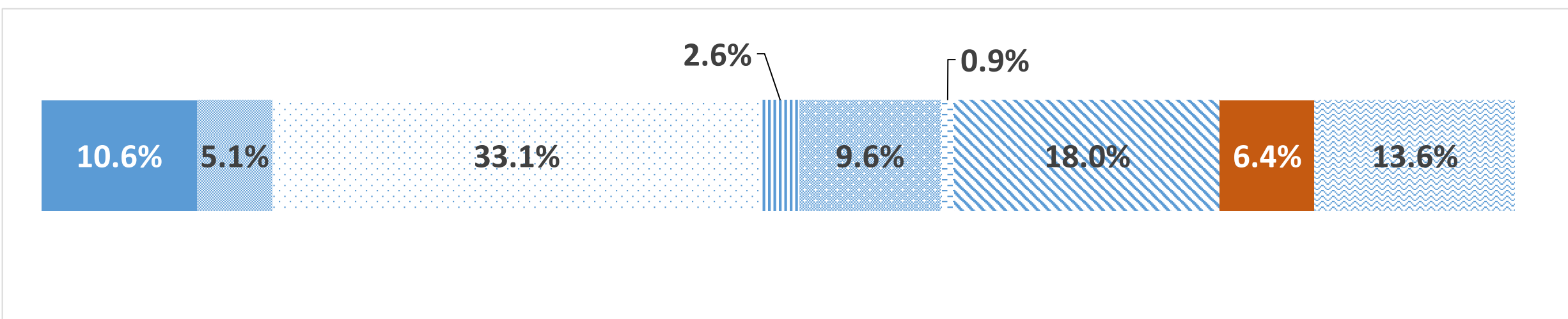
Q13：Q8で「接種予定なし/接種を受けることができない」を選ばれた方にお伺いします。

接種をしない理由として、最もあてはまるものを1つ選択してください。

◎ 全体では、3割強が「副反応が不安だから」、2割弱が「何回も接種することに抵抗があるから」と回答している。
 ◎ 「その他」を除くと、10代以下及び70歳以上では「何回も接種することに抵抗があるから」の回答割合が最も高くなっている。また、10代以下及び20代では「予約や接種が面倒だから」の回答割合が比較的高くなっている。



■全体



■年代別

